

平成27年度 各園の取り組みと振り返り
(成果と課題)

子どもを主体とした保育 保育公開園(公開順)

<中保育所>

今年度、公開保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
保育環境 子どもの姿 保育士の子どもへのかかわり <small>(子どもの見方、声かけの仕方等)</small> ドキュメンテーション <small>(クラスだより、園だより等も含んで)</small>	【乳児】 ◎子どもが遊んでいる姿を見直し、玩具が遊びやすい位置にあるか、遊びをどのように広げていくのか、その為は何をどこに置かなど、環境を工夫し振り返る機会となった。 ◎子どもの主体性を大切にしながら、ねらいや意図をもって遊びや活動をすすめていくための言葉がけの方法をより考えるようになった。 ◎子ども達の中にも、“こうしたい！”という気持ちや意志が出てくるようになった。 ◎ドキュメンテーションや、日々の会話の積み重ねで、保護者にも保育のねらいや意図が伝わりやすくなってきた。	【乳児】 ◎環境を工夫し、自分たちで考えた上で指導を受けたので理解しやすかったが、まだまだ工夫が必要である。子どもの様子を見ながら試していくことで、よりよい環境を作り上げていけるようにしたい。 ◎ねらいや意図を持った上で、子どもに寄り添った肯定的な言葉がけができるようにさらに努力したい。 ◎意図性が強いと“させてしまう”になるので、主体性とのバランスや活動のすすめ方に難しさを感じる。 ◎子どもたちの興味のつながりと発達を同時に伝えるのが難しく、クラスだよりとドキュメンテーションの内容を変えてみるなどしたが、今後も工夫が必要。
ドキュメンテーション <small>(クラスだより、園だより等も含んで)</small> 保護者	【幼児】 ◎遊びと遊びをつなぐ配置、発達や興味・関心に沿った素材やコーナーの設置、子どもの意欲や工夫に結びつく必要最低限の環境、などを心がけるようになった。 ◎子どもたちが、自分で考え、自分で決め、友達と活動を進めようとする姿がよくみられるようになってきた。また自分の思いや考えを、相手に伝えようとする力(コミュニケーション力)が伸びてきた。 ◎振り返りの場面において、子ども達が考えを深めたり、更に疑問をもったり、気づきや発展をもたらす質問の方法を考慮するようになってきた。 ◎10視点にそったスライドショーを作成し、クラス懇談会で活用した。 ◎5領域・10視点に偏りのあるドキュメンテーションになりがちだった。また、伝えたい思いが多く、文字が多くなってしまった。 ◎10視点に基づいたドキュメンテーションを発達や年齢がわかるように同じ用紙に並べて張り出すことで、他クラスの子どもの姿にも興味をもち、目を向ける保護者が見られるようになってきた。 ◎ドキュメンテーションを見て担任に保育の内容を聞いて下さる保護者が増えた。	【幼児】 ◎子どもたちの成長や、トピックスによって環境を柔軟に変化させたり、ひとつの活動を深めるという点で力不足を感じる。 ◎自分の思いは出せるが、友達の話が聞けないなど調整する力が身につけにくい子もいる。 ◎異年齢活動と年齢別の活動を、もっと上手くつないだり、どのように相互作用を作り出していけばいいのか難しさを感じる。 ◎発達段階やトピックス、生活経験を踏まえた上での援助や配慮が十分できていない。又、その後の展開・援助をイメージする力が弱い。 ◎10視点にポイントをおいたドキュメンテーションを、3クラス合同で玄関に張り出し、他クラスの年齢・発達の連続性に気付いてもらえるよう、更に検討していく。 ◎異年齢の活動が、年々子どもたちの中に溶け込み、憧れや思いやりの姿がより自然なものになってきている。引き続き乳児クラスも含めた活動にしていきたい。
職員同士園全体	【全体】 ◎クラスをこえて、保育士同士が話し合うことで、様々な視点から子どもを捉えることができたり、発達段階の把握や子どもの情報共有ができ、適切な関わりにつながった。 ◎まだまだ伝わりにくい家庭も見られるが、子ども達の学びの姿を、より理解して頂けるようになった。 ◎行事のアンケートに、“学び”という言葉が多く見られるようになった。	【全体】 ◎子どもの発達段階やトピックスに応じた環境を、その時々で変化させるよう工夫したが、持続させていくことの難しさを感じる。 ◎興味をもたれる保護者に偏りが見られる為、アプローチの方法を考えていく。 ◎職員同士がクラスを超えて話し合うことが増え、同僚性が高まった。 ◎勤務形態の違いにより、なかなか思いが共有できず、難しさを感じる。
今後の方向性	◎課題への取り組み ◎保育環境やドキュメンテーションの工夫・職員全体の思いの共有や連携など、今年よりも来年と、質が向上していくような取り組みを、引き続き考えていきたい。	

【生活】

- ・生活の流れが身につけはじめ、自分でしようとする姿が増えてきた。
- ・給食では配膳されている量を見て多い少ないを自分で考え選んで持っている。
- ・排泄はまだ声掛けが必要な子どももあるが自分のタイミングでいけるようになってきた。

【発達】

- ・室内、戸外共に自分で好きな遊びを見つけて楽しんでいる。
- ・年長児、年中児に興味関心をもち、遊んでいる様子を自ら見に行く姿も見られ、憧れの姿が芽生えてきている。
- ・自分の気持ちを保育士に伝えたり、保育者を仲立ちしと友だちに伝えようとする姿が見られるようになってきた。
- ・友だちの姿も意識しはじめ『○○ちゃんみたいにしたい』『○○君にならしてってん？』と様子を伺ったり、同じようにして遊ぶようになる。一緒に遊ぶ中で思いの衝突や、自分の思いを上手く伝えられ、泣いてしまいう姿も見られる。



○畑(地域支援者との交流)
・菜園活動への興味関心が低かった子ども夏野菜の花や実が付き始めると少しずつ興味関心が高まってきた。じっくり観察する子どもも多くなったり『あつちもトマトなってる！』『なすび2個あった』『いっ食べれる。』と生長の変化への気付き、収穫する事への期待などの言葉も聞かれる。更には、『トマトできたらピザ作りたい』『オクラもせよ！』と収穫後のクッキングへの意欲にも繋がってきている。また、ブルーベリーを収穫させてもらった事から西川さんの畑への興味関心も高まってきた。色々な栽培物があり、その生長の様子を見せてもらった『これはなんですか？』『どうなったら食べられる？』と西川さんと積極的に関わる姿もみられるようになってきた。



○色水作り

・4、5歳の真似から始まった色水作り。すり鉢・すりにぎ・水・葉っぱを持って来て同じようにやってみる。初めはそれだけで嬉しそうにしていたがなかなか葉っぱから色が出てこない。『先生でかん』『やって～』と言う子どもが多かったが年長児や年中児、保育者に方法を教えてもらいながら試しているうちに作れるようになってきた。今は『どにかくたくさん(量)作りたい』という思いから、少し色水ができると、そこに水を足している。『いっぱいになったで～いいやろ～』と自慢する姿もあり、たくさん作る事に嬉しさを感じている。また匂いがする事にも気が付きはじめ、作ったものの匂いをかいだり、自分のものを友だちや保育者に匂いを嗅ぐよう催促したりする。花びらをつくらど『良い匂い』、ヨモギで作ると『くさい』『お団子みたい』と匂いの違いについても感じてきている。



○虫捕り

・園庭中の色々な所を探しまわって虫を探す。年長児や年中児の姿をみて真似て石やプランターの下を探したり、後をついて行き探す姿もある。見つけた時には大きな声で保育者を呼んだり、みんなに伝えようとしている。虫かゴや容器を持って『集める事』に夢中になっている。



○魚釣り、魚作り

・年長児が取り組んでいた遊びに興味を持ち一緒に遊び始めた。初めは釣る事に夢中になって遊んでいたが、魚を作る事にも興味を広がり作ることを楽しむ子も出てきている。

【遊び】

○泥あそび
砂場でのままごとでは自分なりの食べものを作り、友達や保育者に振る舞う。その中でも『これは熱いんやで』『こっちは冷たい』とその子なりの設定も考えており、その設定にあった反応を求める。(熱いと出されたものに冷たい反応をすると、これ熱いんやで！と再度言うってくる)砂が冷たい、遊んでいる場所に日があたっているとそこは熱いなど温度にも気付きながら遊んでいる。また年中児、年長児の姿をみて泥だんごづくりに挑戦。作る手順やどこの土が作りやすいなど遊びながら教えてもらっている。



○洗濯ごっこ

・自分たちがおままごとで使っているハンカチを洗濯する。はじめは水につけハンカチを持ちあげた時の水が滴り落ちる様子を見たりハンカチが洗んでいく様子を見たりと、水遊びを楽しんでいた。ハチヤバチヤしているだけだった姿がグルグル回しそれを洗濯機みたい～』と言った事からタライを洗濯機に見立てて遊ぶ。また石鹸を使う事で生地と生地をこすり合わせゴシゴシしたり、泡立ってくる様子を見て『もっ泡を作りたい』と励む姿も見られるようになってきた。干す時には『お母さんこんな干して干してよ！』と再現遊びも楽しんでいる。



平成27年度 幼児教育・保育の質向上推進事業～質の向上研修・公開保育～ 保育指導案			
【担任】嵯峨根、武藤、坂本			
時間	環境構成	予想される幼児の姿	評価の観点
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ・魚制作のために様々な材料と道具を用意しておく。 ・深さのあるタライを用意しておく。 ・水タンクを用意しておく。 ・泥団子が作れた喜びや続きが楽しめる様、個別の容器とお団子マンシヨンを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚釣り ・年中児、年長児の姿をみて釣りをしてみる。 ・どうすれば釣れるか考えたり友達のをみる。 ・魚つくりにも興味をもつ。 ・自分のイメージを形にしたり、できないときには保育者や傍にいたる年上の子にやってみよう。 ・砂や水に触れその感触や心地よさを味わう。 ・団子つくりをする。団子が作れやすい土を探す。 ・砂、泥、水を使ってまごどを作る。 ・砂や泥、自然物を使ってピザやケーキなど身近な食べ物を作り保育者や友だちに振る舞う。 ・パケツに砂を集めそこに水を入れ泥水をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞き今日の活動に期待を高められている。 ・自分のしたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている。 ・自分の気持ちを保つ保育者や友だちに伝えようとしている。 ・自分たちが育てている栽培物に興味を持っている。 ・保育者と一緒に自然に触れ子ども達の驚きや発見に共感する。 ・年長児、年中児のしていることに目が向けられるよう、声を掛けていく。 ・どうすれば色がでくのか一緒に考える。 ・子ども達の気付きを周りにいる子に知らせ共有できよう引いていく。 ・他にどんな匂いがあるか試してみようと思える声掛けをする。 ・「○○ちゃんのは～な色だけだ、○○ちゃんのは×××色だね。なんでかな？」「○○ちゃんはお皿を使って色水を作ったんだって」と色の違いを言葉で知らせたり、なぜ違うのか考えられるよう関わっていく。 ・虫を発見した時には、保育者に知らせたり見つけた嬉しさを誰かに伝えようとする。 ・捕まえた虫は容器に入れ次の虫探しをする。 ・誰かが見つけるとそこに集まりトラフルになる。
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・洗ったものを干せようフエンスに紐と洗濯ばさみを用意しておく。 ・タライと取り外しのできる石鹸を用意しておく。 ・片付ける場所が分かるように引き出しやかごに入っているものを写真で提示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯ごっこ ・洗濯するものを水に浸けたり出したりをみる。 ・石鹸をつけてゴゴシ、泡立ようとする。 ・洗濯ひもに干すが絞ったままの形で干かれないと気付いた年長や年中児やが干し直しをしてくれる。 ・自分で使っていたものを片付け、途中で片付けることをやめたり、そのまま保育室に長らうとする。 ・振り返り ・今日の遊びを振り返る。 ・自分がしていたこと、発見、気づきを口々に話す。 ・聞いてほしいことをみんなの前で話す。 ・友達の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫がどこにいますか、どう扱えば捕まえられるか、を考えている。 ・虫の発見を知らせてくれた時には、「どこで見つけたの？」「どうやって捕まえたの？」など話を深め、周りの子どもたちにも共有できるように関わっていく。

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・洗ったものを干せようフエンスに紐と洗濯ばさみを用意しておく。 ・タライと取り外しのできる石鹸を用意しておく。 ・片付ける場所が分かるように引き出しやかごに入っているものを写真で提示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯ごっこ ・洗濯するものを水に浸けたり出したりをみる。 ・石鹸をつけてゴゴシ、泡立ようとする。 ・洗濯ひもに干すが絞ったままの形で干かれないと気付いた年長や年中児やが干し直しをしてくれる。 ・自分で使っていたものを片付け、途中で片付けることをやめたり、そのまま保育室に長らうとする。 ・振り返り ・今日の遊びを振り返る。 ・自分がしていたこと、発見、気づきを口々に話す。 ・聞いてほしいことをみんなの前で話す。 ・友達の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のきれいにしたいものを洗うことで綺麗になる心地よさが感じられるようにする。 ・きれいな匂い、洗濯するとい匂い、洗濯前後の匂いが感じられるようにする。 ・日陰と日向に干すことで太陽の光による違いが感じられるようにする。 ・保育者も一緒に片付け、最後まで取り組めるようにする。 ・子どもの気付き発見、みんなに聞いてほしいことを聞く。 ・それぞれの遊びでの学びを紹介する。 ・集中できない子には傍についていたり、尋ねてみることで会話に入ってもらえる環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児年中児に目が向けられている。 ・自分なりにイメージを表現しようとしている。 ・満足いくまで感触遊びが楽しめられている。 ・土の違いに気付いている。 ・泥だんごを作り上げていく自分や出来上がりが泥団子に喜びを感じている。 ・自然物を使って遊びが広がっている。 ・再現遊びを楽しんでいる。 ・泡立てることを楽しんでる。 ・どこに干すよとよく乾くか三歳児なりに考えられている。 ・自分で片付けられている。 ・自分の思いを伝えようとしている。 ・友達の話に耳を傾けられている。 ・明日(次)への期待を持っている。

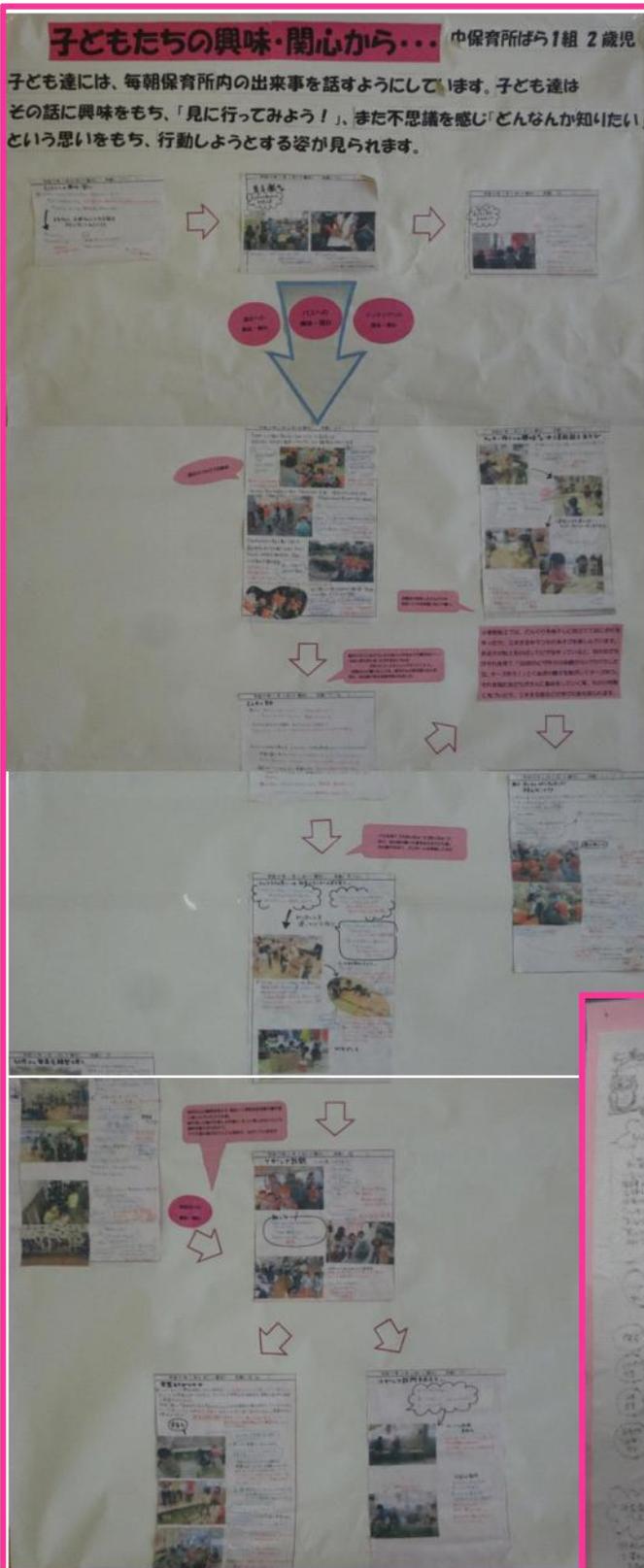
★憧れからの興味の広がり(2歳児ばら1組)

幼児クラスが遠足に行く姿を見たことから、興味・関心がバスに…遠足に…クッキングに…と広がっていきました。その様子と興味の広がりを保護者に伝えたいとの思いで、ドキュメンテーションとクラス便りを作りました。

★畑プロジェクト(4歳児ゆい組)

～かぼちゃクッキングより～

西川さん・萩野さん(地域支援者)に教えてもらいながら苗植え、受粉をし大きなカボチャをたくさん収穫!!収穫前から楽しみにし、みんなで相談して《かぼちゃクッキー》と《かぼちゃカッフェケーキ》を作ることになりました。その中で見られた多くの学びを、10視点で示しています。



＜永福保育園＞

今年度、公開保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
保育環境	子どもの目線で、保育環境を見直したり、動線を踏まえて工夫を行うことができた。	玩具や遊具の使い方や配置の見直しをしている。
子どもの姿	少人数で遊ぶことで、それぞれの距離が近くなり、遊びこむことができるようになった。	好きな遊びを進んで行き、集中して遊ぶ時間が長くなった。
保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	全体に広く声をかけをする際も、子どもの興味関心に配慮するようになった。	子どもの気付きやつぶやきを大切に、待つことを意識して関わるようになった。
ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	可視化を意識するとともに、保育のねらいと子どもの目線を再考する機会となった。	保育の様子を伝えることから、子どもの年齢に応じた発達の場面を伝えることを意識するようになった。
保護者	行事の際などドキュメンテーションを掲示するようになり、普段の子どもの生活の一部ではあるが、理解してもらうことができた。	回数を重ねることで、中味まで細かく酔うんでもらえるようになった。
職員同士 園全体	見てもらうことを前提に、園で行っている保育を見直すことができた。	永らく行ってきたことを基本に立ち返る大切さを学べた。時間が経って忘れてしまわないようにしなければいけない。

今後の方向性	まとめることで、園の保育の意味を再考する機会となったので、公開保育含め種々継続向上を目指したい。
--------	--

クラス名	5 歳児 さくら 組	男児 20 人	女児 12 人	合計 32 人
担当者	瓜生園美 佐藤若菜 武長美里			

最近の子ども達の様子

友達と遊ぶ事を楽しむようになってきているが、自己主張のぶつかり合いが頻繁に起こり、遊びが中断してしまう事が多い。その中で、少しずつではあるが、相手の話を聞いたり、受け入れたり認めたりできるようになってきている。

生き物に興味を持つ子が多くあり、青虫やかたつむりなどの飼育を通して、観察したり調べたりすることを楽しむようになってきている。

泥だんご作りから、泥んこあそびになり、園庭に道（川）を掘ることに夢中になっている。協力しあったり、楽しさを共有したりする姿が多く見られる様になってきた。

竹馬に乗れる子が出てきて、他の子も意欲的に取り組むようになった。何度失敗しても粘り強く練習するうちに、お互いに励ましあったり、教えあったりしている。乗れる友達に対して、すごい…という気持ちを持ったり、なかなか乗れないもどかしさを共有することで仲間意識が深まった。一方、最初から出来ないと取り組まない子もある。

日 案			
平成27年7月13日(月)		5 歳児 さくら 組	
本日の活動		担 当 者	
園 庭 遊 び		瓜生 園美 佐藤 若菜 武長 美里	
ねらい 友達と一緒に好きな遊びを楽しむ中で、気づきや工夫を伝え合って遊びを広げる			
内 容	< 活動・環境設定 >	< 予想される子どもの活動 >	< 配慮事項 >
	1:00 話を聞く ・今までの園庭での遊びの振り返りをする ・園庭へ出る準備をする(帽子・水筒) 1:10 園庭に出る ○しゃぼん玉 ・持ちやすい容器を準備する ・既製のシャボン玉用ストローと普通のストローを選べるように準備する ・ストローに変化をつけて違いが楽しめるようにする ★太さの違うストローを準備 ★はさみの準備 ・ストロー以外の用具で事前に子どもが考えた用具を準備しておく ・使用前・後のストローが分かりやすいようにする	・今までにやって楽しかった遊びをみんなの中で伝える ・嬉しくて、自分のやりたいあそびを友達と話す ・続けてたくさんのしゃぼん玉が出来るように工夫して吹く ・強く吹く、弱く吹く等の違いによって出来方が違ってくことを知り、友達と見せ合う ・友達のしゃぼん玉とくっつけたり、自分でとばしたしゃぼん玉をもう一度ストローにくっつけたりして、色んなしゃぼん玉が出来ることに気付く ・手に水をつければしゃぼん玉を触っても壊れないことを知り、追いかけてそっと掴もうとする ・ストロー以外の物でもできないか試してみる	・遊びへの期待が高められるよう、子ども達の言葉を受け止め、今までの遊びの振り返りをする。 ・子どもがしていることを言葉にすることで、子ども自身に工夫を意識させる ・保育者も子ども達の言葉に共感し気づきを受け止めたり言葉かけしたりして見守る ・「どうしたらこんなんできたん？」と問いかけ、保育者が一緒になってすることで、意欲が高められるようにする ・ストロー以外の用具でしゃぼん玉が出来るヒントを与え自分で考えるきっかけを作れるような声かけをする

おとうばん

永福保育園
ひまわり組 4歳児

期間：(おとうばん)は毎週のように行い「おとうばん」も毎日行われるお当番として使われ中!

ねらい 身の回りの生活に親しみ
身近な環境に興味を持つ。

きっかけ さくら組と生活を共にする機会が増え
お当番の活動に興味を持ち子どもから
「ひまわりはお当番せんのか」と声があがった。

<見られる自分を意識する年々>
お当番は嬉しい! はがきでも上手。
(お当番のみんなと受け合うことにより) 感謝を
覚えている。

<真似ることで始まる>
友だちの姿を見て同じように
しようとする。その姿が通いの中で
おとうばんになっている。

<感謝に気付く>
おとうばんの人に感謝の気持ちで
言葉でいわれることも喜ぶことが増え
始まっている。

**<仲間の中心者としての
自覚が芽生える>**
クラスの中で責任ある役割を持つ
ことが自覚や自信につながる。

<言葉の広がり>
お当番生活には様々な言葉も
使われる。おとうばんの言葉も使われ
たり、おとうばんの言葉も使われ
たり。

<友達との仲間のつながり>
おとうばんは友達と一緒にやる
ことが、友達と仲良くする
きっかけになる。

<共通しを持つ>
(おとうばん)お当番を見て
はがきを書く。おとうばんの
おとうばんの言葉も使われ
たり。

自分の事で精一杯なのに時期を過ぎ、友だち
とのつながりが広がってきたことには
お当番活動の役割を覚えている。
改めてこの活動を振り返ると、単なるおとうばん
ではなく成長に大事な要素をたくさん含んで
いることに気付く。子どもたちの成長を感じながら
今後も続けていく。

年長組と生活を共にする機会が多い4歳児は、しっかりものの「おとうばん」に対する憧れや「やってみたい」気持ちを持ち始めています。

5歳児年長組が行っている「おとうばん」は、お昼の給食の時間前に出て大きな声のご挨拶をしたり、階段のお掃除を行うなど、クラスみんなのために、たくさんの仕事をてきぱきとこなす重要な役目です。

少しだけお当番をしてみることで、みんなに認められる満足感と少しだけ大人になった気分を味わいました。

＜やまもも保育園＞

今年度、公開保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
<p>保育環境</p> <p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児、特に0才児は感触・音・色などを意識し、子どもの発達に合った手作りおもちゃを作製。 ・絵本棚を作り、子どもたちの目線に並べるようにした。おもちゃも同様、自分で選んで出してきた、子どもたち自身が思うようにあそび、片付けやすい環境を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達をしっかりと把握し、見通しを持った上で、おもちゃの選び方、使い方を常に考え用意しておく。 ・あそびの中で考えて使用する事を学べるよう、数も考えていく。 ・乳児も幼児も使用する園庭で、スコップや押し車など、使い方を職員間で一致させ、危険のないように使用していきたい。
<p>保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結果だけでなく、その課程を言葉で伝えるなど、言葉がけを工夫するようになった。また、子どもたちが自分で考えられるような言葉がけをするよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まねること、気持ちをだすこと、考えを伝えることなど、発達に合わせること。また、楽しくあそべたり、行動できるようにする。 ・子どもの気持ちを先取りしない。
<p>ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)</p> <p>保護者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだよりや園だよりで発達をとらえたり、あそんだ様子のみだったが、それにより学んだ事など、伝える内容が変わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを使い、保護者に日々の保育を理解してもらい、子どもの成長と一緒に喜び合えるようにしたい。そのために保護者の目の止まる場所に掲示できる環境作りが必要。 ・保護者にも年長の活動の見通しが持てるよう、しっかり知らせていきたい。
<p>職員同士 園全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちのたくましさはどうか」との助言を受け、これまでの活動においても心も体もと思い取り組んでいたが、それが本当にひとりひとりと向き合えているのかどうか、話し合いを重ねている。 ・保育士が自ら学ぼうとする意欲が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長をずっとつなげていけるよう、全体でひとりひとりの成長を振り返り、課題を話し合い、それを職員全員のものにしていく。
<p>今後の方向性</p>	<p>「たくましく生きる力をつける」という保育理念のもと、職員が一丸となり、連携をとり、ひとりひとりの子どもの育ちを考えていく。</p>	

やまもも保育園		
3歳児	りす組	26名
(担任名)	水上あゆみ	中田紗妃
	柴田紗矢香	

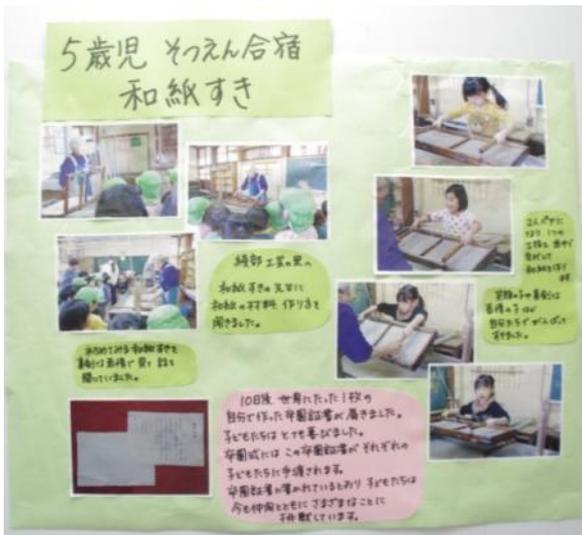
最近の子どもの姿		
<p>生活の仕方がわかるようになり、自ら進んでできるようになってきた。友達との関わりが豊かになり、ごっこあそびが盛んに見られる。自分の思いを伝え合うなかで、トラブルも多いが、自分たちであそびを見つけて工夫し、よく遊んでいる。</p>		
今日の活動		
<p>《晴》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム ・園庭あそび 		
ねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・体をのびのびと動かす ・好きなあそびを見つけて、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう 		
時間	内容	環境構成と援助
9:30	○片付け・水分補給	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に片付けができるよう、保育士も一緒に片付けながら声を掛ける。 ・きりん組の部屋で水分補給をし、休憩がとれるようにする。 ・水筒を置いておく ・手本となるよう保育士も元気に歌う。 ・2グループに分かれてリズムをする。 ・保育士が手本となるよう、のびのびと体を動かし楽しむ。 ・素敵などころを大いに褒めて意欲につなげる。 ・参加しにくい子へは様子を見守りながら、声を掛けたり手をつなぐなど少しでも参加できるよう配慮する。 ・水分補給をし、休憩がとれるようにする。 ・出欠の確認を子どもと一緒にしながら健康状態を把握する。 ・危険のないよう保育士の配置に気を付ける。 ・一緒に遊びながら、あそびが展開していくような言葉掛けをしたり働きかける。また、遊びや子ども同士の関わりを見守ることも大切にする。
9:45	○うた ○リズム	
10:30	○片付け・水分補給 ○朝のあいさつ	
10:40	○園庭あそび ・ごっこあそび ・どろんこ ・虫探し など	
11:20	○片付け・着替え ○水分補給	
11:30	○給食の用意	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが見つけない子には、誘って一緒に遊んだり友達とのあそびにつなげられるよう、仲立ちとなる。 ・保育士も一緒に片付けながら、意欲的にできるよう声を掛ける。 ・汚れている子はシャワーをし、着替えをするよう促す。 ・足拭きマット、タオルを用意しておく。 ・排泄、手洗い、うがいを傍で見守り、必要に応じて声を掛ける。



【1歳児ドキュメンテーション】
乳児の園庭あそびの1コマを紹介し、子どもの遊びの大切さを伝えています。



【年長児ドキュメンテーション】
やまもも保育園では年長になると様々な活動が増えます。年数回行う合宿もその1つで、この2つのドキュメンテーションは、その中の一部です。
なぜ合宿を大切にしているのかを含め、全保護者に年長の活動を知ってもらい、先の見通しを持ってもらいやすいように掲示しました。年長の保護者には合宿の報告も兼ねています。



文集 “やまももっ子”

毎年、卒園時期に全卒園児の保護者の方が思いを書いて下さり、それを集めて文集“やまももっ子”にし、全世帯に配布しています。長い子どもで6年間やまもも保育園で保育させてもらうことになるわけで、“やまももっ子”は親としての視点から、やまももの保育や子育てについてを伝える良い機会となっています。もちろん、それには保育者からの思いも載せています。さまざまな体験や日々の生活、子ども達の成長していくようすなどの写真も入れているので、先への見通しにもなっています。



＜タンポポハウス＞

今年度、公開保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
保育環境	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃材や素材を集めたり、自然物(木、実、貝など)も、準備するようになった。 ・動線を考え、使いやすいように小分けしたり作る物に合わせて用意した。 ・作った物を展示するコーナーを工夫したり拡大していった。 <p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち自身が遊びを選べるように、静と動のコーナーを作ったり、玩具を豊富に揃えたことにより、好きな遊びを十分に楽しめるようになった。 	<p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じた手作りおもちゃなどを用意し、個々の発達にあった遊びを楽しむるように工夫する。
子どもの姿	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材を自分で選び、物作りを自由に楽しむ姿や、作った衣装を身に付けてステージで披露することを喜んでいた。 ・縦割りで取り組む事によって刺激を受け、作ったり表現する事で自信が付いた。 ・完成に向けて、役割分担して協力し合う。 ・作りたい物が明確化し、必要な物を保育士に伝えたり、工夫して作れるようになった。 <p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいこと、好きな遊びを見つけて遊んでいる中で、お友だちに刺激され出来ることも増えてきた。 ・保育士発信ではなく、子どもたちから遊びをリクエストする声が増えてきた。 	<p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿、発想、動きなどの予測の幅を広げて個々の気持ちを受け止めていく。
保育士のかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと同じ思いと一緒に作ることを楽しみ、きっかけ作りをしたり、思いを共有したりして、自信につなげていった。 ・自分の思いを上手く表現できない時は、ヒントとなるような声掛けや選択肢を提案するようになった。 <p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全面を配慮し、見守りながら一人ひとりに寄り添って関わる。 ・友だちとのトラブルをチャンスと考え、相手の思いを知り、思いやりへとつなげていけるようにしていく。 	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りは、子どもの思い、主体性を引き出すような声掛けをしていく。 ・発表出来なかった子も満足の出来る終わり方を心掛ける。
ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告が主になっていたが、育っている力を意識し、言語化するようになってきた。 ・写真の写し方を全体から手元へつなげるようにした。 ・クラス便りや縦割り保育の報告(エピソード記録風)などで発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していきたい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・「家でも、空き箱や段ボールなどを使って製作するようになった」などと、成長を喜ばれる報告があった。 	
職員同士園全体	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動するにあたって、子どもたちの動きを想定し、打ち合わせを密に行った。 ・子どもの動きに合わせて臨機応変に動けるようになった。 <p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの成長や姿を伝え合ったり、話し合うことが増え、保育士同士が同じ思いで保育できるようになった。 	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、話し合い、環境作りや反省の機会を設けていく。 ・職員同士が共通理解をして、意識を高め合う。 ・子どもの姿、成長を保育士間で伝え合い、皆で個々の成長を喜び合う。 <p>(乳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの個性、発達を引き出せるように保育士同士で話し合い、環境作りや関わり方を工夫していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・乳: 日々の生活や遊びの中で、心身共に成長できるようにして行きたい。 ・幼: 子どもたち一人一人が自信を持って表現したり、主体的に過ごせるようにしていきたい。 ・全体: 個々を大切に丁寧に関わる。 	

平成27年10月15日(木) 9:30~12:30

タンポポハウス

4歳児 ふじ組 : 22名(男児12名 女児10名)

担任 : 大槻・猪野

子どもの姿(遊び・生活・発達)

【生活】

- ・日々の繰り返しの中で、衣服の着脱、次の活動の準備など、身の周りの始末が自分で出来るようになってきている。
- ・自分の事だけでなく、他児の事も意識し、4、5名のチーム内で協力し合ったり声掛けをし合う事が増えてきている。
- ・話を聞く体勢を作ることが難しく、気付いて静かにしようしたり、話す人の顔を見ることに時間が掛かってしまう。
- ・「もう、6やで頑張る時間や」など、時計を見て行動する子の姿も見られる。
- ・シール貼りで、日付が分からない子に指差しをして教えるなど、自分の知っていることは教えてあげようとする

【発達】

- ・運動会で、和太鼓を披露することにより、全員で合わせて打つ難しさを知り、出来た時の喜び、達成感を少しずつ感じられる様子である。
- ・スイミングの水泳指導により、水に対しての恐怖心がなくなり始め、テストでの結果に喜びや悔しさを感じ、努力する姿が見られる。
- ・遊びの後の振り返りや、週一度の園全体での朝の会を通して、自分の思いを人前で発言する力がつき始めている。
- ・運動会の取り組みを通して、友だち同士励まし合ったり、補助し合ったり、小さい子に教えようとするなど、自分の持つ知識を共有しようとしている。
- ・製作あそびを通して、ハサミやマジック、画用紙やカップなど、物を大切にしようという気持ちや物の使い方が身についてきている。

【遊び】

〈製作あそび〉

(作る)

- ・初めての試みのため、初めはトイレットペーパーの芯をバングル型にきったものやテープの芯に絵や模様を描き、物作りに興味をもち始める。段階を踏み、画用紙や折り紙を使って製作することで、楽しいと感じる。
- ・様々な廃材を使うようになり、始めは繋げたり、ただ貼るといったことが楽しい様子だったが、遊びを重ねるにつれ、イメージして作りたいものを形にする姿が少しずつ見られるようになった。
- ・作ったものを見せ合ったり、飾ることで「〇〇はこんなん作れるん？すごいなあ」などと憧れたり、自分でも作ってみようという思いや意欲が高まっている。

(遊ぶ)

- ・作った物を見せ合う中で、子ども同士で遊び始めたこと、貸し借りをしていたことから、作った物で遊びたいという思いが見られ始めた。
- ・貸し借りをする中で、「これと替えよ」「(時計の)針が5になったら交替して」など自分たちでルールを決めたり、交渉しようとする姿が見られるようになった。
- ・食べ物を作り、テーブルに並べ、一緒に食べて遊んだり、お店屋さんになり手作りのレジでお買い物をしたり、アクセサリーやスカートを身に付けることを楽しんだりと少しずつ遊びが展開し始めている。
- ・展開していく中で、「お金がいる」「鞆を作ろう」と必要な物を作ろうとする姿も見られ、遊びに広がりが見られる。

＜東山保育園＞

今年度、公開保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の様子をよく見ながら、その時々に応じて興味・関心がどこにあるのかを見極め整えていくようにした。 ・あそびの展開・発展に合わせて、材料を追加したり環境も変化させるようにした。 ・保育士と安心して過ごす中で、信頼関係を築き自分の興味のある遊びを見つけて楽しんでいる。 ・今、子どもが関心を持っていることに目を向け、手作りおもちゃなど提供し、遊びを広げていけるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の発達に応じた環境を整えていくとともに、発達を促していけるような保育内容を充実させていく。 ・異年齢児と多く関わりを持つことで、模倣して遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。 ・見本を見せることによって興味・関心を持つことができ、子ども達から”作りたい、〇〇したい”など語るようになってきた。
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・”こんなことがしたい、そのためにはどうしたらいいか”という見通しを持ちながら、友達と協力し合って遊ぶ姿が見られた。 ・個々、友だち同士ともに遊び込む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び込むことが難しい子どもに対しての関わり方・環境の整え方を考えていく必要がある。 ・異年齢児との関わりも増え、親しみを持って遊ぶことができている。
保育士のかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びを見守ったり、子どもからの援助要求に対して一緒に解決していくようにした。 ・年齢に応じた玩具を準備し、一緒に遊ぶことで遊びに興味を持てるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからの問いや援助要求には答えを出すのではなく、ヒントを与えながら子ども自身が考えていけるようなきっかけ作りをするようにしている。 ・いろいろな遊びを経験する中で、今、子ども達が何に興味を持ち遊んでいるのか少しずつわかり、子ども達に興味を持っている遊びを提供できるようになってきた。
ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がどんな遊びをして日々を過ごし、成長しているかを保護者に伝えられるように、写真や言葉など工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に見てほしい、知ってほしい子どもの姿、育っていることなどをより明確に紙面に書く。 ・行事等で張り出す機会を増やすことで、ドキュメンテーションを見られる保護者が少しずつふえてきている。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションに少しずつ関心を持ってきておられるが、まだ写真だけに興味を示され、繰り返し伝えていかないとまだまだ関心が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを見てもらい、子どもの成長を共に喜びあえる関係を築いていきたい。
職員同士園全体	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で話し合う機会も多くなり、つながりもより深まっている。 ・各クラスがどんな活動に取り組んでいるのか、その中でどんな育ちが見られるのかをドキュメンテーションや会話などを通して知り、さまざまな情報を共有するようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをする時間がとりにくいが、更に意見交換の場を設けるなど話し合いを深めていきたい。 ・担任同士で子ども達の細かな発達について話することも多くなった。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や、興味・関心を重点とした保育を続けていきたい。 ・子ども主体の保育を進めて行くための保育環境・保育士のかかわり方を考えていく。 	

子どもの姿(遊び・生活・発達)

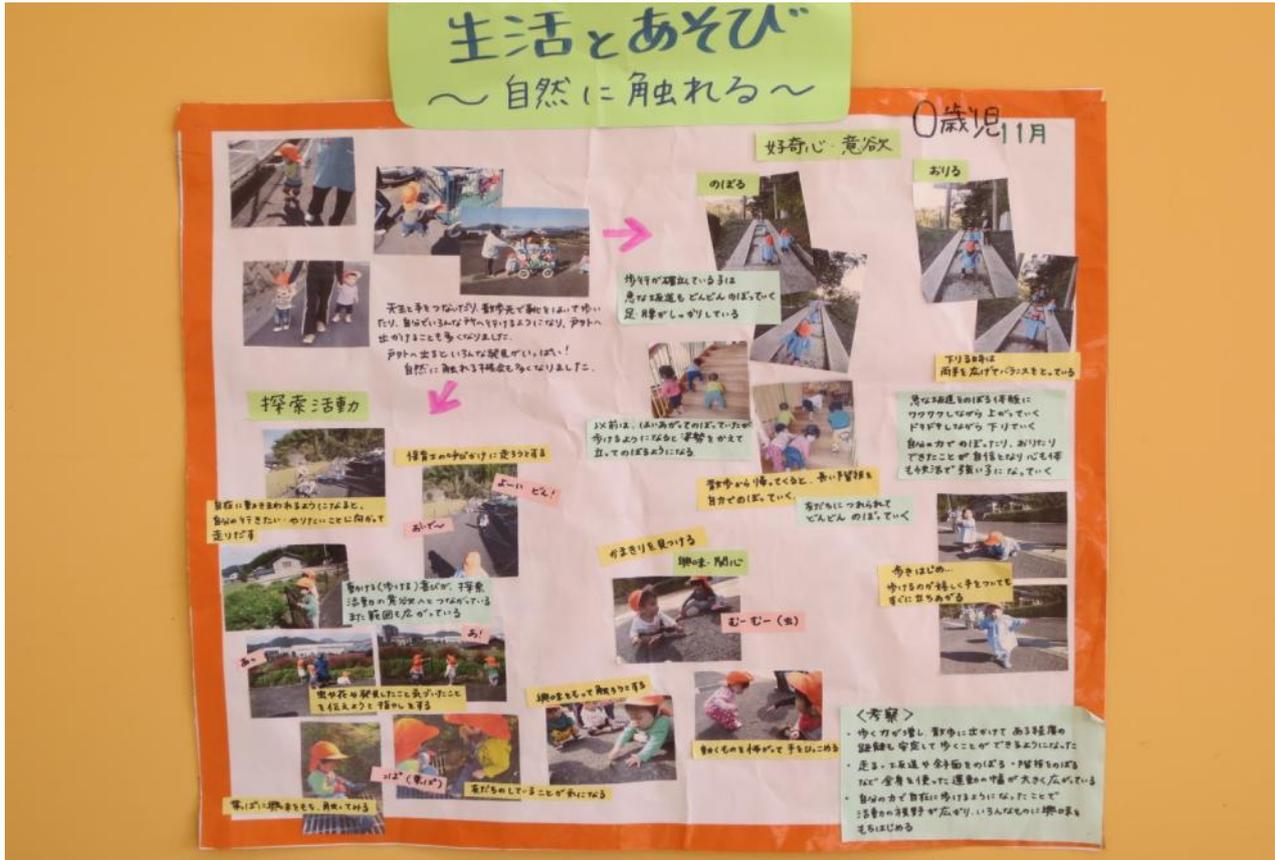
- ・ 気の合う友だちの中でも自分の気持ちをはっきりと話すようになってきた。また繰り返し取り組みばどんなことでも上手になることを知り、自信を持って行動するようになってきた。時には友だち同士、意見のぶつかり合う姿も見られる。
- ・ 友だちと共通の目的に向かって活動する中で、自分なりに力を発揮して取り組む姿がみられるようになってきている。ドッジボールやリレーなど集団での遊びを好み、仲間を集めて自分たちで遊びを進める様子も見られる。
- ・ いろいろな活動に対して一人ひとりが目的や課題を持って取り組み、自分なりに考えたり、工夫したり、試したり、頑張りたりできるようになってきている。友だちの様子を見て刺激を受けることも多い。
- ・ 友だちに相談しながら遊びに必要な材料や用具を見つけたり、保育士に伝えたりしながら遊びを進めようとすることもある。
- ・ 友だちの驚きや発見を聞くことでそれがクラス全体の共通の関心事となり、調べてみよう、試してみようとする姿が見られるようになってきている。
- ・ 遊びの中で自分なりに工夫しているところを友だちに認められることで喜びを感じている。その活動への充実感、達成感、意欲が高まってきている。

本日の活動		製作あそび・木片あそび・砂あそび	
遊びのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージが自由に出せる素材を楽しみながら、試したり工夫したりする。 ・友だちとのつながりを深めながら遊びを進めていく。 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児としての自覚を持っている。 ・年下の友だちの前に立つことに喜びを感じ、自分に自信が出てきている。 ・遊びの中に目あてを持っている。 ・遊びの中のイメージを膨らませている。 ・素材を手にすることに喜びを感じ、イメージを膨らませようとしている。 ・友だちと一緒に作ることで、よりイメージを膨らませている。 ・イメージする物を作るために素材や作り方を工夫している。 ・道具の使い方を理解し、スムーズに使いこなす手先の器用さも身につけている。 ・素材のおもしろさがわかり、それぞれが得意な遊びの性質の違いにも気づいている。 ・年下の友だちの存在に気づき、相手がどうしてほしいと思っているのかが考えられている。 ・自分がイメージして作った物を友だちに与えてもらうことで喜びを感じている。 ・友だちとおもしろさを共有しようとしている。 	
環境構成	<p>予想される子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験 <ul style="list-style-type: none"> ・他クラスの前に立ち、自分たちが手本となるように体操をする。 ・鉄棒をしてから保育室に入る。 ○朝の集まり <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を持って自分の好きな所に円型になるように座る。 ・1日の予定を聞いて確認する。 ・自分のしたいあそびを口に出している。それを友だちと伝え合っている。 ○製作あそび <ul style="list-style-type: none"> ・材料棚の中から気に入った物を取り出したり、友だちが手にしている物を見て同じ物を探そうとする。 ・自分の作りたい物のイメージに合う素材を迷いながら選んでいる。 ・セロハンテープやのり、ポンド、テープ類は多めに準備しておく。 ・作った物を飾る場所は製作コーナーの近くに作る。 ・室外、室内を行き交いやすいようにゆとりのある空間作りをする。 	<p>保育者の援助と配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、身体を動かす機会を作ることで次への活動へスムーズに移行したり、落ち着いて活動に取り組みたりするようにする。 ・他クラスの年下の友だちの前に立つことで、年長児としての自覚を持ってたり自信を持ってたりできるように動きかけしていく。 ・1日の予定はわかりやすいようにボードに書くようにする。 ・子どもたちのあそびの意欲が高まるような朝の集まりにしていく。 ・遊びに必要な素材や用具は子どもと一緒に考えたり準備したりする。 ・子ども達がイメージがわきやすいように、身近な素材や自然物を取り入れるようにする。 ・子ども自身が自分のイメージや思いを明確につかめていない場合には、その子の気持ちに沿いながら、思いが確かになるように援助していく。 ・自ら工夫している姿を受け止め、その子なりの表現を認めながら意欲を高めたり、自信が持てるようにしていく。 ・製作した物を大切に扱っていき、飾り物を見やすい位置に掲示する。 ・身につけたり、遊びに使える物を見本として飾っておき、子どものイメージを広げていくようにする。 ・友だちのイメージにも目が向くような動きかけをしていく。 	
時間	9:45	10:00	

時間	環境構成	予習される子どもの姿	保童者の援助と配慮	評価の観点	時間	環境構成	予習される子どもの姿	保童者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> 作った物で遊ぶコーナーを遊ぶ 遊戯室に製作途中の作品を探しやすく置いておく。 遊戯室前に木片を選びやすいように置いておく。 形や大きさの異なる木片を準備しておく。 遊びに必要な道具類を多めに揃えておく。 使用する道具類の安全確認を行うしておく。 釘は太さや長さの違いを確認しておく。 作業のしやすい空間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作った物を持って遊ぶコーナーへ行き、友だちと一緒に遊ぶ 遊びに必要な物を考え、素材を組み合わせて作る 木片あそび <ul style="list-style-type: none"> 様々な木片に取って大きさや形を見比べながら、自分が作った物のイメージに合った木片を選ぶ。 つけようとする木の厚さを確認し、つなげるために必要な長さの釘を選んでくる。 自分が力の入れやすい所を握りながら、金づちで釘を木に打ち込んでいく。 打ち込みにくい所がある時は、保育士に木をpushしてもらったり、つなげ方の具体的なアドバイスを求める。 途中で自分で作っている物を持ち上げてみた、自分が動いている、出来た、見守ってほしい、 「ここに手が打てた」「こんな形になってきた」と自分の作品を友だちにアピールしたり声をかけて呼んで来て、作品を見てもらう。 釘を打ち込む前には何度も木片を置いてみて、その組み合わせ方、組み立て方を考えようとしている。 まわりの友だちと話をすることもなく釘打ちをしている。 「ここにつけようかなあ」「こうしたら格好いいやん」と自分の思いを口にしながら作業に取り組んでいる。 釘が曲がった時にはその都度金づちを使って直すとしている。 年中児の姿を真似ながら、釘打ちのアドバイスをしたり、材料同士のつなげ方を教えたりしている。 木片を組み合わせて遊んでいる年下の友だちにも声をかける。 木片を選んで持ってくる。木片を渡したり、こんなんが作れるよ」と自分で作品を作り戻せたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作コーナーの横に作った物で遊ぶコーナーを作り、あそびが広がっていくようにする。 友だちが作った物にも目を向け、一緒に遊んでいく。 道具や用具、材料の扱いについて、機会をとらえて子どもと一緒に考えさせたり、一人ひとりに丁寧に知らせたりして徹底させる。 子どものイメージが膨らむような様々な形、大きさの木片を準備しておく。 危険がないよう安全確認を十分に行い、自分で遊ぼうとするのを促す。 友だちの発想や考えを認め、それが実現できるような素材を用意する。 自分なりに考え、試行錯誤できるように保育士は子どもの行動を受け入れ、見守っていくようにする。 友だち同士刺激を受け合い、受けた刺激が遊びに反映していくよう、また友だちのイメージにも目を向くような働きかけをしていく。 子どもが自分から取り組んでいる姿を認め、工夫できる所は褒めながらやり遂げられるよう、保育士も一緒に考えたり試したりしていく。 子どもの思いに共感し受けとめていく。 友だちがまわりで遊んでいる姿にも働きかけをしていく。 難しい所は手伝いながら、自分で作り上げているという達成感や満足感が得られる取り組み方を試していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作る楽しさがそれを遊んで楽しむことに変わってきている。 遊びのイメージがより大きくなり膨らんでいく。 友だちと一緒に遊ぶことでよりおもしろさが増している。 木という素材のおもしろさを感じている。 イメージを膨らませながら、作ることに意欲を持っている。 これまでの経験から材料に合った用具の選び方を知っている。 経験の中で道具の扱い方を知り、それを使いこなしている。 わからない所は人に聞こうとしている。 解決するための策を知ろうとしている。 自分の作っている物を振り返ってみることで更に工夫する所を探そうとしている。 友だちに見せたいところを喜んでいる。 試したり工夫しながらイメージを広げている。 釘を打ち込むという作業に楽しさを感じている。 組み立てて形を作るという作業にもおもしろさを感じている。 友だちがまわりで遊んでいる姿にも働きかけをしていく。 難しい所は手伝いながら、自分で作り上げているという達成感や満足感が得られる取り組み方を試していくようにする。 自分の持っている知識や技術が友だちに伝えられている。 自分で作業を進めていく楽しさを感じている。 	11:00	<ul style="list-style-type: none"> テーブルや砂場、道具を砂場近くに配置する。 道具は出し入れしやすい所においておく。 カップや台所用品などは多めに準備しておく。 拾い集めてきた自然物は手にとりやすい所に置く。 室内、室外へ自由に出入りできるように、足ふき用のマットを敷いておく。 収納場所がよくわかるよう写真やラベルを貼っておく。 赤、青、黄3グループに分かれる。 保育士や子どもの顔が見やすいように円型に椅子を並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂あそび <ul style="list-style-type: none"> 道具を使って砂をすくったり、友だちと一緒に深く掘ろうとしている。 一輪車に砂をいっぱい入れて砂場の外に運んでいる。運んだ土を使って土あそびが始まる。 土の中から出てきた物を友だちに見せ、それが何であるかを伝えている。 容器に砂を入れてひっくり返し、食べ物に見立てて飾りつけをしたり、年下の友だちを誘い込んでこっそり土あそびをさせている。 木片コーナーの木を持ってきて遊ぼうとする。持ってきた物を見せたり、貸してあげたりしている。 友だちが作った製作物を見て、自分も「作ってやる」と製作コーナーへ行こうとする。 砂場横の土の山に穴を掘るために土を削ったり、木を植えて遊ぼうとしている。 片づけ <ul style="list-style-type: none"> 作っている途中の物は置いておいたり、使った道具や用具を元の場所に片づけていく。 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 自分が遊びの中で感じたことや作った物を見せながら、工夫したところなどを伝える。 椅子に座り続けることが難しく、身体が動いてしまったり、まわりの友だちと話を聞いて「今度は自分もやってみよう」と次の日の活動を楽しみにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の自由あそびの間に子どもたちと一緒に遊びに必要な準備をしておく。 一輪車やスコップ、木などダイナミックに遊びが楽しめるような道具を準備しておく。 子ども同士が互いのことを意識できるような言葉かけを多くしていく。 子どもの様々な発見や驚きを受け止めて共感していくようにする。 イメージがよりよく具体的な会話がかわたり、一緒に遊んだりする。 まわりにいる子どもたちを遊びに誘うきっかけ作りをし、一緒に遊ぶ、お客さんになるなどしながら遊ぶ。 木片コーナーの木を持ってきて遊ぼうとする。持ってきた物を見せたり、貸してあげたりしている。 友だちが作った製作物を見て、自分も「作ってやる」と製作コーナーへ行こうとする。 砂場横の土の山に穴を掘るために土を削ったり、木を植えて遊ぼうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に遊ぶ 自分の知っている事を友だちに教えた、友だちが遊ぼうとしているのを助ける 砂という素材からイメージが広がる 木や木片を遊びに取り入れることで、遊びがよりおもしろくなることを知っている。 作った物を友だちに見せたいという強い気持ちが出てくる 満足感や達成感が生まれてくる 友だちと同じ目を持って取り組むことで、お互いの力を発揮しあっている 自分の役割を見つけて果敢と試している 物を大切に扱うことを学んでいる 自分の思いを友だちに伝える力がついてきている 友だちの意見を聞いてみて、自分もやってみようという意欲が出てきている 期待感や目標を持っていく

○ 0歳児 生活と遊び

歩行が確立してきて、自分のやりたいこと行きたいことなどの好奇心・意欲がより一層増して、活動の視野が広がっている様子をドキュメンテーションにしました。



○ たてわり3、4歳児による創作劇遊び

自分たちで劇を進めていき、やりがいを感じ楽しんだその過程をドキュメンテーションにしました。



＜舞鶴幼稚園＞

今年度、公開保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって身近に感じやすい・手にとりやすい、子ども同士のつながり・遊びのつながりいうことを基本に子どもの動線を考えた環境の構成に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらい達成のために翌日の環境をどのように構成するかを常に考える意識を保育者が持つことと職員間の話し合いを密にし、共に考え合える連携が必要。 ・子ども一人一人が自分なりのめあてをもって主体的に遊び、仲間の良さを認め合う集団づくりを目指す。 ・発達年齢を踏まえ、各学年のねらいを明確にして異年齢児との交流や共通の活動を計画し、次の学年へ遊びの継承をしていく。 ねらいや意図を短い文で表現することが課題である。伝わりにくい部分も含めて、表現・啓発の仕方を更に研修していく。 ・子ども、遊びの情報共有をし、よりよい子どもの育ちを考え環境の構成・援助ができるよう互いに研鑽していく。
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを引き出したり、話し合ったりする振り返りの場面で、保育者が見守ったり記録に残したりするようにした。そのことで、子ども達が経過を見直し、自分達で話し合ったり、活動を進めたりしていくようになった。 	
保育者の 子どもへの かわり (子どもの 見方、声か けの仕方 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・予想していた遊びとは異なる内容が盛り上がり、ねらいを明確にして長期の見通しを意識して子どもの姿・遊びをみていたため、子どもの興味・関心に応じて活動を進め、ねらいに向かっていくことができた。 	
ドキュメン テーション (クラスだ より、園だ より等も含 んで)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションの取り入れ方を学び、活動の様子や子どもの姿から伝えたいことを明確にして表現していけるようになった。ドキュメンテーションに目をとめる保護者も増えてきた。 	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを見た保護者から「掲示がたくさんあって、子どもの話だけではよく分からない今日あったことを知ることができ、ほほえましく拝見させてもらっています」、「1つ1つ行事ごとにくわしく様子をまとめていただいているおかげで、子ども達がのびのび・ワクワク活動してるんだなあって感じ取ることができました。毎日の小さな積み重ねが大きな成果につながることを改めて感じさせられました。」などの感想をいただいた。 	
職員同士 園全体	<ul style="list-style-type: none"> ・長期の見通しを共通理解することで、日々の話し合いの焦点をしぼることができた。 	

今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分のめあてや思いをもって仲間と共に生活をつくりだしていける保育について研修を深める。 ・関係機関との連携、専門機関とのつながりづくりをしながら、幼児一人一人の力を十分に伸ばしていける保育環境のあり方を探る。
------------	---

クリスマスツリー作り
11月中旬、親が家から折り紙でサンタクロースを作ってきたことがきっかけとなり、クリスマスに向けて思いが広がりました。B児に作り方を教えてもらい、1日で30個近くサンタクロースを作っていた。たくさん出来たサンタで何か作りたい...サンタさんでツリーを作るのはどう?とツリー作りが始まりました。なかなかかと思うようについに苦戦する日も見られたが友達と話しあったり、絵本で調べたり少しずつ自分たちのイメージに近づき始めているところである。当初はサンタさんだけを飾る予定だったが、絵本を見ていくうちに色々な飾りがあることに興味を持ち、色々なクリスマスへの物の製作が進んでいく。大掛かりな製作を進めていく中で、思いを強く主張できるこの意気込みが通らないように見守りながら、みんな1つ1つのものを作りあげていく達成感、満足感を味わえるように活動を進めていきたい。また、大きな製作だけでなく、個々の表現としてクリスマスに関するものを作っていく姿も大切に援助していきたい。

- 友達とイメージを共有し、力を合わせて製作する楽しさ、面白さを味わう。
- クリスマスへの思いを深めていく。
- 幼児と共に今日の製作に必要な用具や材料を考えながら準備していく。
- ☆今日の活動に見通しができるよう声をかけ、みんなで力を合わせて頑張ろうとする姿を見守ったり言葉をかかけたりする。

☆1人の思いが優先されないよう時には教師も参加し、思いを上手く伝えられない幼児の後押しをしていく。
☆材料や用具の扱い方を確認し、丁寧に扱えるよう言葉かけをする。
◇友達とイメージを共有し、製作することを楽しんでいたか。
◇用途に応じて用具を扱うことができていたか。

海の世界を楽しむ
以前から海や魚が大好きなA児の思いを大切に、海の世界を楽しめるコーナーを設定した。乗物遠足で水族館にもいき、クラス全体としても海、魚への興味は広がっている。A児は魚のことをよく知っており、図鑑をみながら保育者とのやりとりをしたり、図鑑を見ながら好きな魚を指さす姿を楽しんでいる。A児の世界を大切に、他の幼児も海や魚への興味・関心を広げていきたいところである。

- 保育者とのやりとりを楽しみ、思いを上手く伝えられない幼児の後押しをしていく。
- 自分なりのイメージを広げながら描くことを楽しむ。
- すぐに描けるように用具を準備しておく。
- ☆保育者と一緒に大好きな魚の話を広げていく中で、知っている知識を自分の言葉で説明すること、人と話すことを楽しめるよう援助していく。

☆図鑑を見て描く中で細かい部分にも注目して描けるよう声をかける。
◇自分の思いや知識を教師にたくさん伝えることができていたか。
◇自分なりに工夫して描くことができていたか。

自然物を使った製作遊び
園外保育で見つけた秋の自然物をきっかけに製作することを楽しんでいる。これまでの遊びの経験を活かし材料や素材など色々な組み合わせを考えながらイメージが広がっている。製作を進めていく中で「これはどんぐりさんがステーションで歌っているところ」「ここでは電車で乗っている人やで」と作品に対するイメージの世界がどんどん出始めている。教師や友達とのやりとりを広げながらイメージして製作することをもっと楽しんでもほしいところである。

- 秋の自然物を使って色々な製作表現を楽しむ。
- イメージを広げて製作することを楽しむ。
- すぐに遊びが始められるように必要な用具や材料を用意しておく。
- 秋の図鑑を幼児の手に届くところにしておく。
- ☆工夫して作る様子を認め、満足感を感じられるようにする。
- ☆遊びの中で友達とのやりとりが広がっていくように教師の言葉かけを工夫していく。
- ☆友達の様子に目を向け、色んな表現方法があることを知らせしていく。
- ◇自分なりに工夫して、イメージを広げて作ることを楽しめていたか。

カードを使って(大縄・短縄・マラソン) ※雨天時は遊戯室
運動会後、色々な遊びに対し「やってみたい!!」「もっと出たい!!」という声が出てきた。以前から楽しんできた縄跳びや遊ぼうタイムで行っているマラソンを取り上げ、挑戦カードを作ったこととでさらに思いが高まっているところである。個人差はともない一人一人が自分なりの目標をもって挑戦したり、新しい技を考えたり子どもたちの中で遊びが膨らんでいる。出来た!!だけでなく挑戦しようとする思いを受け止め、継続して楽しむようにしていきたい。

- 自分なりの目標をもって挑戦する。
- 友達の手助けを頼りながら共に遊ぶ。
- ☆遊び方がきこちない子や上手い子と教える姿が見えない子など、色々な姿に応じた援助を行う。また、一人だけの技でなく友達と一緒に挑戦する面白さも感じられるよう援助していく。
- ☆友達と気持ちを合わせてやることで得られた達成感を保育者も共有する中で、次の意欲に繋げられるような言葉かけをする。
- ◇意欲的に挑戦することがかかっていたか。
- ◇色々な気持ちを体験しながら体を動かすことを楽しめていたか。

ルールのある遊び(ドッジボール・鬼ごっこ) ※雨天時は遊戯室
2学期当初から毎朝、遊ぼうタイムの後に年中児と一緒に様々なルールのある遊びを楽しんでいる。設定の中で取り上げ、経験することでもルールの理解もできるようになってきた。10月頃から「もっと遊びたい!!」思いをもち、少しづつ思いが膨らみ始める姿が見られるようになった。11月に入ってからドッジボールが盛り上がり1日に何度もチームを交代して遊んでいるところである。運動会でのリレーの経験を生かし、自分たちでチームを決め、作戦会議をし1人1人の勝ちたい!!思いが日に日に強くなってきている。何度も対戦する中で勝ったり、負けたり、色々な気持ちも経験することができた。遊びの中で自然と年中児とのかかわりも深まり、時折強い口調も見られるが、先頭にたつて遊びを進めて行く年長児である。人数が揃わずできないこともあるが、みんな遊ぼう楽しんで遊んでいる姿が印象的である。走るなど色々な体の動かし方にも意識出来るよう個々の姿に応じて声をかけていく。

- 友達と思いを伝え合いながら一緒に遊びを進めて行く面白さを感じて遊ぶ。
- 寒さに負けず戸外で伸び伸び体を動かすことを楽しむ。
- その日の遊びに応じて目標を引けるようにしておく。
- ☆遊びの中でそれぞれが思いを出し合うことで互いの気持ちに気づき、子どもたち同士で考えたり、調整し合ったりして遊びが進められるようにする。

☆時には保育者が同じ遊びを楽しむ仲間として参加し、子どもたちと一緒に色々な気持ちを共有しながら、もっと遊びをおもしろくするためのきこちな言葉をかけたりしていく。
◇友達や思いや姿に目を向け、一緒に遊びを楽しむことができていたか。
◇体を伸ばし動き出して遊ぶ心地よさを感じていたか。

平成 27 年度 年長児 協同的な遊び ～ハロウィンパーティーをひらこう！！～

(9月7日～10月29日までの取組)

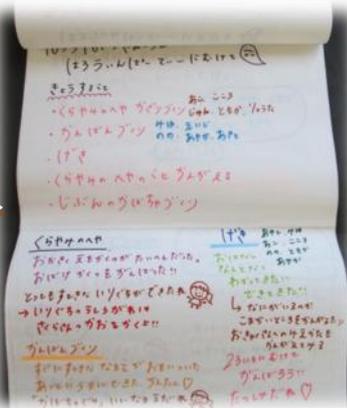
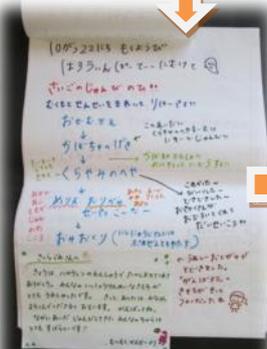
ハロウィンパーティー開催のため、保育室に紫色の旗を飾りつけたい！！と考え出し、年少の頃より楽しんでいる色水遊びからヒントを得て染め物遊びを展開する。

ハロウィンパーティーを開催するために
毎日の振り返りの時に「今日の活動と明日の活動」について、みんなで話し合いを重ねながら、進めていきました。



幼児自身が何度も見返すことができるように話し合いのまとめを掲示しておくことで、遊びに対する思いを深める・共有することができやすい環境となった。

保護者にも子どものがんばりが伝わり、ハロウィンパーティーへ参加してもらいやすかった。



ハロウィンパーティーに参加した保護者からのメッセージ

(まとめ)

- ・互いに思いを表現し、葛藤も経験しながら活動をすすめていく面白さを感じることができた。
- ・園外の友だちを招待することで、楽しんでもらえるために何度も考え直し活動を深めることができた。
- ・遊びの中の葛藤・困りを子ども達自身が受け止め解決しようとする場面を大切にする保育者でいたい。
- ・子どもの興味とねらい達成の兼ね合いの難しさを感じた。発達理解と環境構成の工夫に研修を重ねていきたい。

生活科学習指導案

指導者名 1年担任 廣谷 沙織

年長担任 松味 友里恵

1 日 時 平成27年7月2日(木) 9:30～10:30

2 場 所 岡田保育園

3 学 年 岡田小学校第1学年 計10名

岡田保育園年長児 計21名

4 単元名 なつだあそぼう

5 単元について

本単元は、夏の公園や校庭で、身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しんだり、自分たちの生活を楽しんだりすることを主なねらいとしている。季節の遊びとして、「身近な草花を使った遊び」「砂場遊び」「泡遊び・色水遊び」という3つの活動を設定している。まず「身近な草花を使った遊び」では、自然物を使った活動を行うとともに、自分達で遊びを工夫する楽しさやよさを十分に感じられるようにする。その後の「砂場遊び」「泡遊び・色水遊び」については、岡田保育園での活動になるので、事前に「はじめの会」と「終わりの会」の司会の準備をさせたり、どんな遊びをしたいのかカードに書かせたりして見通しを持たせ、活動への意欲を持てるようにする。

本地域の児童は自然豊かな環境で育ち、自然の中での遊びの経験が多く、身近な草花の名前やその遊び方をよく知っている児童がいる。みんなで仲良く声をかけ合って遊ぶことができ、本単元の活動でも1年生や年長児の差なく楽しんで遊ぶことができると思われる。お互いに自分たちで考えた遊びを交流し、普段よりも多い人数の中で多様な遊び方を楽しめるようにしたい。また、1年生は既に保育園で砂遊びや色水遊び、泡遊びなどの体験をしている。その時のことを思い出し、どのようにすればうまくいくのかと予想を立てて試したり、水をどう使えばよいか、混ぜたらどうなるかなど、新たに発想を広げたりしていけるようにしたい。

活動の際は、まずは一人一人子どもたちがそれぞれの関心・意欲をもとに活動するが、同じことをやっている子どもどうして集まって、声をかけ合って活動できる場作りをする。困っている児童がいれば、教師が見守りながら、自分の思いを言えるように促す。また、みんなで使う場所や、同じ道具を使うときのルールとマナーを確かめ、みんなで気持ちよく活動できるようにする。保育園への行き帰りはバスを利用するので、乗り物の中でのマナーを守り、気持ちよく利用することができるようにする。活動後のうがい、手洗いなどの衛生面の指導も十分に行う。活動の振り返りでは、自分の気付きや感想を絵や文、言葉で表現することで明確にできるようにし、気付きを交流できるように十分な時間を確保したい。

6 単元目標

- 夏の校庭で、身近な自然とかかわり、それらを利用して遊ぶことを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができる。(気付き)
- 身近な自然やものを利用した遊びを考え、それをすなおに表現することができる。(思考・表現)
- みんなで使う場所を、安全に気を付けて正しく利用することができる。(関心・意欲・態度)

7 単元の評価規準

8 単元指導計画

時次	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点)
一	自然の観察と遊び	○草花や樹木、虫などの動植物を探したり観察したりする。	○活動の前に、危険な場所や安全のための約束を確認する。 ○児童のつぶやきを拾い、気付いたことを共有させる。	○身近な自然に関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。 (関・意・態) ○諸感覚を使って、夏の草花や虫を観察したり、夏の草花で工夫して遊んだりしている。(思考・表現)
二	砂場遊びの計画	○岡田保育園の砂場でどんな遊びをしたいかカードに書く。 ○はじめ・終わりの会の司会を決める。 ○砂場遊びをする。	○どんな遊びをしようか、そのためにどんな道具を用意すればよいかを考えさせ、活動への意欲を持たせる。 ○子どもの気付きや楽しさを受け止め、意欲を持って取り組めるように見守る。 ○子どもたちが、困ったことや自分の思いが言えるように促す。 ○道具や遊んだあとの片付けをやり切らせる。	○どんな遊びをしようか、進んで考え、準備しようとしている。(関・意・態) ○遊び方を工夫して考え、絵や文で表現している。(思考・表現)
三	3・4 砂場遊び	○子どもたちが、困ったことや自分の思いが言えるように促す。 ○道具や遊んだあとの片付けをやり切らせる。	○子どもたちが、困ったことや自分の思いが言えるように促す。 ○ハンガー等の材料を準備しておき、工夫した遊びができるようにする。	○子どもたちが、困ったことや自分の思いが言えるように促す。 ○ハンガー等の材料を準備しておき、工夫した遊びができるようにする。
五	5 泡遊び・色水遊びの計画	○岡田保育園で泡や水を使ってどんな遊びをしたいかカードに書く。 ○はじめ・終わりの会の司会を決める。	○どんな遊びをしようか、そのためにどんな道具を用意すればよいかを考えさせ、活動への意欲を持たせる。	○どんな遊びをしようか、進んで考え、準備しようとしている。(関・意・態) ○遊び方を工夫して考え、絵や文で表現している。(思考・表現)
六・七 (本時)	6 泡遊び・色水遊び	○泡遊び・色水遊びをする。	○子どもの気付きや楽しさを受け止め、意欲を持って取り組めるように見守る。 ○子どもたちが、困ったことや自分の思いが言えるように促す。 ○道具や遊んだあとの片付けをやり切らせる。	○水や泡を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さに気付くことができる。(気付き) 水や泡を使った遊びを工夫することができる。(思考・表現) 泡遊び・色水遊びに関心をもち、みんなで作って遊ぼうとしている。(関・意・態)
四	8 記録	○夏の遊びの中で、楽しかったことや、気付いたことを記録カードに書く。	○何を試して遊んだのか、どうすればうまくいったのかなど、発見したことを思い出させる。	○草花の特徴や遊び方、水の性質や遊びの工夫など、夏の遊びで気付いたことを絵と文で表現している。(思考・表現)
9 発表	○記録した内容を発表する。	○発表の感想を交流させる。	○夏の遊びについて、気付いたことや楽しかったことを、進んで伝えようとしている。(関・意・態度)	○夏の遊びについて、気付いたことや楽しかったことを、進んで伝えようとしている。(関・意・態度)

9 本時の目標

- 1年生：水や泡を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さに気付くことができる。(気付き)
水や泡を使った遊びを工夫することができる。(思考・表現)
泡遊び・色水遊びに関心をもち、みんなで作って遊ぼうとすることができる。(関・意・態)
年長児：友達や1年生と、色水の変化やシャボン玉の美しさ、不思議さを感じている。

10 本時の展開(6・7/9)

導入	5分	主な活動	予想される幼児・児童の反応 (児童)	指導上の留意点
1 いさつをする。	2 今日の活動の流れを確かめる。	3 泡遊び・色水遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・何でしゃぼん玉作ろうかな。 ・速く、ゆっくり吹いてみよう。どうなるかな。 ・道具を1年生とつくる。どんな大きさができる？材料は何？ ・花や泥を混ぜると、どうなるかな。 ・友達や1年生と見せ合おう。比べてみよう。 ・この泡でもしゃぼん玉つて出来るかな。 ・いろんな色、形が見えたね。作れたね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育園児が遊んでいる所へ1年生が合流する。 ○遊びが大さく、「しゃぼん玉遊び」「泡遊び」「色水遊び」の3つを準備しておく。 ○児童に司会をさせ、活動への意欲を持たせる。 ○活動場所を確認する。 ○子どもの気付きや楽しさを受け止め、意欲を持って取り組めるように見守る。 ○児童が園児と同じ場所で声をかけ合って遊べるようにする。 ○子どもたちが、困ったことや自分の思いが言えるように促す。 ○ハンガー等の材料を準備しておき、工夫した遊びができるようにする。 ○児童が周りの様子を見て、集まったり片付けたりできるようにする。 ○片付けをやり切らせる。 ○児童に司会をさせ、自分たちで振り返りができるようにする。 ○普段とは違う友達と一緒に遊んだことを振り返らせる。 ○仲良く活動できたことや気付いたことを評価する。
4 後片付けをする。	5 今日の振り返りをする。	6 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなしゃぼん玉を作ろう。そっと動かすとうまくできるよ。手でもできるかな。 ・道具はこうやって作るよ。 ・色水を作りたいな。この花とこの花を混ぜるとこんな色になったよ。 ・草を揉んだら緑の水になるね。 ・しゃぼん玉の液に土を混ぜると色が変わるよ。 ・せっけんの泡でクリームを作ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなしゃぼん玉が作れて楽しかった。 ・いっぱいしゃぼん玉を作るのが楽しかった。 ・いろんな色水を混ぜるとおもいような色になった。 ・1年生、友達は～してたね。 ・一緒に遊べて嬉しかった。

11 評価

- 1年生：水や泡を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さに気付いている。(気付き)
水や泡を使った遊びを工夫している。(思考・表現)
泡遊び・色水遊びに関心をもち、みんなで作って遊ぼうとしている。(関・意・態)
年長児：友達や1年生と、色水の変化やしゃぼん玉の美しさ、不思議さを感じている。

＜岡田小学校＞

今年度、公開授業・保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	→	課題・今後に向けて
連携のねらい、活動内容の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分より年下の園児に進んで仲良く関わることをねらいとして活動を行ってきた。 ・活動のイメージを明確にもつことができていなかったが、児童にさせたい活動について、教師がより具体的にイメージを持ち、手立てを考えることができるようになった。 ・児童と園児の実態を考え、お互いが自然に関われるように、ペア活動・グループ活動を年間通して行い、仲良くなれるきっかけとなった。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と自然に関わることができるように、ペア活動等を取り入れる。 ・一つ一つの活動につながりを持ちながら、ねらいを具体的に持ち、年間を見通して活動する。
子どもの姿の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の交流では、児童だけ、園児だけで分かれて活動する姿が目立った。活動の後に、関わり方や発見したことを振り返り、次のめあてを持って次回の交流を行うことを繰り返し、徐々に児童が進んで関わるできるようになってきた。 ・活動を重ねるごとに「次はこういう言い方できりん組さんを誘おう。」というように児童が園児へかける言葉を考え、年下の子のことを考えて働きかける喜びを感じることができるようになった。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて、活動、振り返りを繰り返し、一つ一つの交流をつながりのあるものにする。 ・事前にどのような言葉で関わればよいのか、具体的に考えさせておくことが有効だった。
保育者・教員の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・園児への関わり方、交流活動の見守り方や言葉のかけ方について、教師の戸惑いが大きかったが、交流活動を通して学び、少しずつ具体的に考えられるようになった。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の役割や出場を事前に考え、児童や園児の動きを見ながら言葉をかけることを大切にする。
担任同士連携	<ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとに打ち合わせ・反省会をもつことで、保育園と小学校のお互いの実態や課題などを共有することができ、より実態に合わせた次回の計画や手立てを相談することができるようになった。 ・活動当日には、導入・振り返りなど、それぞれ担任同士の役割を分担して行った。 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も活動の打ち合わせと反省会を継続し、実態や課題を共有していく。
その他(園、学校全体として、家庭とのかかわり等)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、さらに充実した交流をしていきたい。 	→	

＜岡田保育園＞

今年度、公開授業・保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？ → 課題・今後に向けて
連携のねらい、活動内容の変化	<ul style="list-style-type: none"> *事前打ち合わせでは「ねらい」を互いに語り合っていた。が、7月(公開保育)の時点では、真の理解や共有性に欠けていた。公開保育時「ねらい」が説明出来なかったが、それは明確なねらいが持てて居なかったんだと学んだ。 *その後の活動では互恵性を意識した「ねらい」を一緒に考え、活動し、反省や次へと繋げていった。 *実践を重ねる度に、小学校と保育園の日常(既存の授業と保育)を、自然な関わり(無理の無い活動)へと発展、繋げる事に意識がいくようになった。互いの事情(文化の違い)を、無理に近づけようとせず、理解し合うことが大切だと気付いてきた。
子どもの姿の変化	<ul style="list-style-type: none"> *1年生は、学校生活に慣れてくると卒園児であっても在園中とは変化(成長)していた。6月の初回時はさほど感じなかったが、7月の公開時は遊び・活動に停滞部分も見られ、子ども達の変容ぶりが気になった。原因は様々考えられるが、回を重ねる毎に、教師・保育者が共通の「ねらい」を大切に、園児・小学生理解に努めたので、子ども同士の関係性も育っていった。 *秋、冬の活動(あきみつけ、おまつり等)になると、互いの想いを伝え合ったり、意見がその場で言えたりする姿が増えてきた。教え合う姿や見守る姿、刺激を受け合う「関わる力」が育ってきた。 *毎日の振り返りやサークルタイムを通じて、意見や気付いたことを発言したり、友達の話、遊びも「良く聴く、見ている」子どもが増えた。遊びや活動に「つながり」も見られ、行事等の見直しへと繋がった。 *年長児は、小学校との連携をととも楽しみにする姿が見られた。
保育者・教員の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)の変化	<ul style="list-style-type: none"> *公開時の反省、気付きを生かし「何のためにするのか」「どんな子を育てたいのか」「子どもの実態・興味関心にあっているか」等、深く考えるようになった。園内での話し合いの機会が増えた。小学校教師には、「保育園では、指示命令を控えている」「準備しすぎない」等伝え、園の想い・要望をはっきり言える保育士が育ってきた。 *子どもに「任せろ」「したいことをする」「考えさせる」「失敗しても再チャレンジ」「子どもの発言を良く聴く」の場面が増えてきた。結果では無くプロセスを大事にしようとする保育が少しずつ実践されている。 *振り返り場面では、ねらいを押さえた意見の出し合いを1年生の姿をモデルとし、公開以後更に、活発になった。毎日の活動や経験を重ねることで、少しずつ、保育士もポイントやコツが判ってきた。 *指示命令語は、殆ど使用しなくなり、問いかけたり、考えさせたり、提案したりする声かけになってきている。
担任同士の連携	<ul style="list-style-type: none"> *年度の始まり(一部は旧年度中)に、年間の反省と次年度の年間計画を小学校教務主任と保育園主任で話し合い、互いの組織、園全体におろした。 *1年担任は、6月に保育園へ来るのが初めての段階であった。保育の現場、保育内容、環境、子どもの発達等をご存知なかった。見て・知って貰い、情報共有し、指導者同士の行き来も増えたので理解が進み、変化した。 *教務、主任で立案した計画を元に、年長担任と1年担任が話し合いを密にとり、年間計画や指導案を作成した。クラス・子どもの実態に沿った、活動毎にねらい、活動内容、反省、気付きの話し合いが出来たことは、充実や互いの理解に繋がった。 *指示や一斉指導を控え、ひとり一人に寄り添う保育、環境の大切さ等小学校教師・担任は園から学びがあったと言われた。 *園だより、学校だよりに加えて、学級通信・クラスだよりも交換し、子どもの姿や活動状況を把握した。 *小学校は人事移動があるので、反省等を学校内で共有したり、カリキュラムを引き継いでもらいたいとお願いした。
その他(園、学校全体として、家庭とのかかわり等)	<ul style="list-style-type: none"> *長年、地域の保育園として小中学校とは様々な交流があり、近年は生活科を中心とした連携・公開研究会を通して、岡田小学校との繋がりが深まり、研鑽を重ねてきた。地域活動、交流、イベントが主流であったのが、年間計画作成やねらいの確認、活動毎前後の反省・話し合いを重ねたことで、互いの想いや育てたいことが確認でき、通じ合うようになった。 *保護者へは、園だより、クラスだより、ドキュメンテーション等を通して、連携活動の様子・保育の様子を伝える回数が増えてきている。 *職員同士も繋がりが深まった。小学校長、教務主任を中心に来園機会も増え(加佐地域保小中連携公開保育含む)、保育を見て貰い、様々な話が気楽に出来るようになった。 *木下光二先生のご紹介で、11月始めにK県K市教育委員会の視察を受けた。新たに多様な眼で保育を観てもらい、気付きや感想を得て、今後の本園の保育の質の向上の意欲へと繋がる機会となった。 *一枚の写真やエピソードから「子どもをどう？観るか」という、自主園内研修を木下光二先生のご指導の下行った。この様な保育を語り、学び合う機会が大切だと思った。



加佐地域保小中連携公開保育
年長児・振り返りタイム公開中



行事毎にドキュメンテーションを園内に掲示
保護者は興味深く見ている 平成27年12月19日（土）



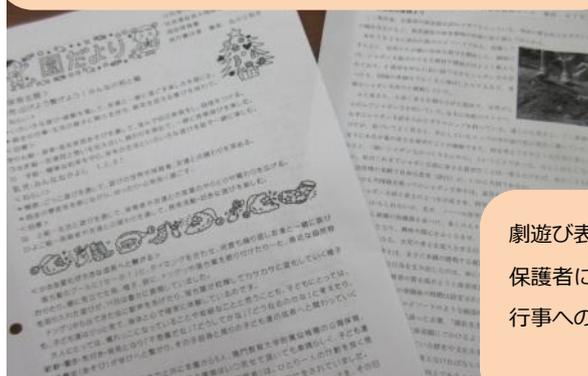
年長児・野菜の重さ、数への興味より
「レッツ！クッキング」ドキュメンテーション
平成27年12月中頃作成



作成したドキュメンテーションを見ながら、
付箋を貼り、意見を出し合う
平成28年1月9日（土）



園だよりを保護者、地域、関係機関に配布
園での子どもの様子や保育環境、取り組みを紹介
平成27年12月号より



劇遊び表現会プログラムにパンフレットを加え、遊びのねらいやプロセス、変化を紹介
保護者に保育内容、環境、子ども・保育士の想いを伝え、可視化する良い機会となった
行事への取り組み方も変化してきた 平成28年2月27日（土）



生活科学習指導案

指導者名 朝来小学校 2年担任 西村 柔美
1年担任 畑本 曜子
朝来幼稚園 年長担任 林 裕美子

- 1 対 象 朝来小学校 第1学年 男子 15名 女子 16名 計 31名
第2学年 男子 7名 女子 10名 計 17名
朝来幼稚園 年長児 男子 3名 女子 11名 計 14名
- 2 日 時 平成27年12月1日 火曜日 第2、3校時 (9:40~10:50)
- 3 場 所 朝来小学校 体育館
- 4 単 元 名 「あそびのフェスティバルをたのしもう」
(教材名:「つくってワクワク あそんでワイワイ」日本文教出版)

5 単元について

本単元は、学習指導要領「生活」の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする」に基づいて設定したものである。ここでは、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びの工夫や、遊びに使う物を工夫しながら作ることが主な活動である。そして、その活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを楽しめるようにすることを目指している。また、学習指導要領生活科の内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」も含まれ、地域の人々や幼児、学級、学年の友達との交流など、人とのふれあいを大切にできる単元でもある。

指導に当たっては、まず、1年生、2年生、年長児が混合で8つのグループに分かれて、それぞれのグループごとに自分たちは、どんな遊びのお店にするか計画し、「あそびのフェスティバル」の準備から運営まで協力して取り組ませる。1、2年生と年長児と一緒に取り組み、子どもたち自身が思いを込めて自分たちの遊びのお店を作り上げることで、自主的に活動する態度や異年齢交流による協調性、リーダーシップ、思いやりの心が育ち、今後の自分たちの生活をよりよいものにできると考える。さらに、本単元は、児童が意欲的に取り組めることや、体験が中心の活動であることから、思いや気づきを絵や言葉で伝え合う力「表現力」を高めるのにも適していると考え。そこで、フェスティバルの計画や準備の中で、友達のよさや自分のよさに気付かせるようにしたい。また、自分の考えを伝え合う場としてグループでの話し合いを設定し、円滑に進めることができるようにしたい。

4月から、朝来幼稚園との交流を積極的に進めている。本単元以前にも、春には、1、2年生で幼稚園を訪れ、自己紹介をし合い、一緒に歌や遊びを楽しんだ。また、幼稚園の畑へ行き、サツマイモの苗と一緒に植えたり、収穫と一緒に楽しんだりした。その交流の中で、2年生は昨年を思い出し、自分なりに1年生や年長児に声をかけ、思いやりを持ってかかわろうとする姿が見られた。また1年生も、小学校の中では一番年下だが、年長児とのかかわりの中で、優しく接していこうという気持ちを持って、取り組んでいる姿が見られた。交流を重ねるごとに、児童と園児の会話も弾むようになり、年長児も1、2年生にすっかり打ち解けている様子が伺えた。小学校への憧れを抱き自信や意欲を高めることで、小学校への円滑な接続を図りたい。

- 6 単元目標
- (1年生) 2年生や年長児、友達と親しかかわりながら、身近にある物を使って、楽しく遊びや遊びに使う物などを作り、遊ぶことができる。
- (2年生) 1年生、年長児に頼しみをもち、上級生として適切にかかわりながら、進んで「あそびのフェスティバル」の計画を立て、身近にある物を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作り、みんな楽しんで遊ぶことができる。
- (年長児) 1、2年生とのかかわりを通して、子ども同士の信頼感を深め、年長者に対する憧れや成長への期待を持ち、楽しく遊びや遊びに使う物などを作り、遊ぶことができる。

7 単元の評価規準

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
1年生	○身近にある物を使った遊びに関心を持ち、年長児や2年生、友達と親しかかわりながら、楽しく遊ぼうとしている。	○2年生と一緒に考えたり、自分で考えたりしながら、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、楽しかったことなどを表現している。	○身近にある物を使って遊ぶことや、年長児や2年生、友達とかわりながら遊ぶと楽しいことに気付いている。
2年生	○身近にある物を使った遊びに関心持ち、年長児や1年生、友達と適切にかかわりながら、「あそびのフェスティバル」の計画を立て、みんな楽しんで遊ぼうとしている。	○年長児や1年生、友達と適切にかかわりながら、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、活動を振り返り、気付いたことやさらに試みたいことなどを表現している。	○身近にある物を使った遊びや遊び方を工夫することで、みんなで遊ぶと楽しいことや、年長児や1年生と適切にかかわることなどで、自分や友達のように気付いている。

8 単元指導計画

時次	学習内容・活動	指導上の留意点	評価基準 (評価の観点)＜評価方法＞
1	・自分たちがこれまで経験したお祭りについて話し合い、どんな「あそびのフェスティバル」にしたいか話し合う。	・「あそびのフェスティバル」について話し合いでまとめたことから、それぞれのグループごとに取組むお店(遊び)について、大まかに決めさせる。	・年長児とのかかわりに関心を持ち、「あそびのフェスティバル」を計画することへの意欲を持つとうとしている。(関・意・態) ＜発言・行動観察＞
2	・年長児と1年生、2年生合同で行う「あそびのフェスティバル」の計画をする。	・年長児、1年生、2年生が混合で8つのグループに分かれる。	・グループごとに話し合いながら、お店の計画を立てたり、設計図を作ったりしている。(思・表) ＜発言・行動観察・ワークシート＞
3	・グループごとに計画に沿いながら、「あそびのフェスティバル」に向けて、お店の準備をする。	・グループごとに材料を集め、遊びや遊びに使う物を作らせる。	・計画に沿い、材料を集めたり、アイデアを出したりしながら、遊びや遊びに使う物を作る楽しさに気付いている。(気付き) ＜行動観察・作品＞
4			
5			
6			

7	・グループごとに自分のお店の遊びを試し、ルールを変更したり、追加で必要な物を作ったりする。	・グループの中で、実際にお客さんとお店の人に分かれて、体験させる。 ・グループの遊びを試したことで気付いたことから、よかったことやもっと工夫できることを話し合わせる。 ・話し合いを活かし、ルールの変更やもっと必要なものを考えさせる。	・遊びを試す中で、ルールを変更したり、追加で必要な物を作ったりすることの大切さに気付いている。(気付き) ＜行動観察・作品＞
8			
9	・グループごとに計画に沿いながら、再度、「あそびのフェスティバル」の準備をする。	・前時の振り返りをもとに、直した方がよいことがある場合には、改善するなど、再度、準備を進める。 ・看板づくりや飾りづくりなどにも取り組ませる。 ・グループごとに、役割分担をし、当日の流れの予定を立てさせる。	・教え合い、協力し合って、楽しくお店や遊びに必要なものを作ろうとしている。(関・意・態) ＜発言・行動観察＞
10			
11	・グループごとに、お店の紹介を考える。	・自分たちのお店のよいところが、みんなに伝わるよう紹介を考えさせる。 ・分かりやすいポスターも作って、紹介させる。	・自分たちのお店のよいところがみんなに伝わるように、文や絵に表現している。(思・表) ＜ポスター・発言＞
12	・「あそびのフェスティバル」を開催し、一緒に楽しく遊ぶ。	・それぞれ自分の役割を果たして、「あそびのフェスティバル」を盛り上げさせる。 ・グループごとに、前半と後半でお店役とお客さん役に分かれて楽しませる。	・友達と一緒に活動すること、自分や友達のように、気付いている。(気付き) ＜行動観察・発言＞ ・協力し合って、お店を開こうとしている。(関・意・態) ＜行動観察・発言＞
13			
14	・「あそびのフェスティバル」の振り返りをする。	・「あそびのフェスティバル」の終了後、友達と協力して片付けさせる。 ・気付いたことや感想などを「○○ニュース」カードに作文や絵でかき、活動を振り返らせる。	・「あそびのフェスティバル」や感想などを、作文や絵に表現している。(思・表) ＜ワークシート・発言＞
15			
備考	生活への関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 身近な環境や自分についての気付き・・・(関・意・態) ・・・(思・表) ・・・(気付き)		

9 本時の目標

- (1年生) 年長児や2年生、友達と協力し合ってお店屋さんを開き、遊ぶ楽しさに気付くことができる。
- (2年生) みんなが楽しめるように、年長児や1年生、友達と協力し合ってお店屋さんを開き、自分や友達のよさに気付くことができる。
- (年長児) 1、2年生や友達と相談したり、役割を分担したりして遊び、自分の思いを伝えながら、様々な人とかわわって楽しく遊ぶ。

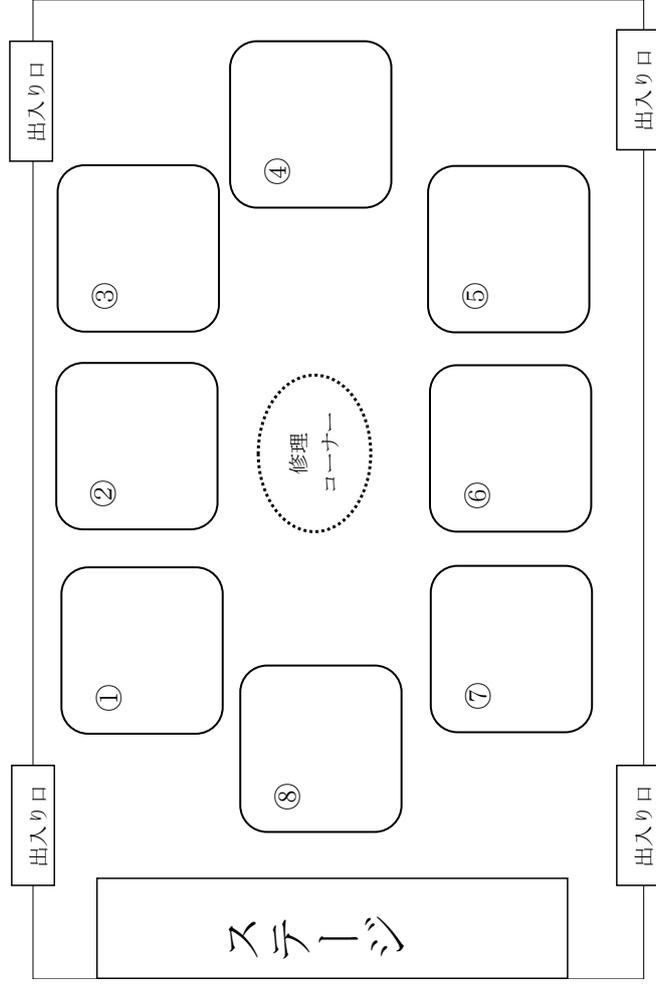
11 評価

- (1年生) 年長児や2年生、友達と協力し合ってお店屋さんをして遊ぶ楽しさに気付いている。(気付き)
- (2年生) 年長児や1年生、友達と一緒に活動することで、自分や友達のよさに気付いている。(気付き)
- (年長児) それぞれの役割の中で、1、2年生や友達と相談しながら楽しく遊びを進めている。

10 本時の展開 (12, 13, /15)

過程	主な活動	予想される幼児・児童の反応	指導上の留意点
導入 (10)	1 学習の目当てを確認する。 ○始まりの会をする。 ・初めのあいさつ ・歌を歌う 「世界中の子どもたちが」 ・目当ての確認 ・約束の確認 ・お店の紹介	(年長児) 楽しんで、たくさんお話を回りたい。 ・たくさんお話を回りたい。 ・2年生いつも回会上手だな。 ・緊張するな。 (1年生) 楽しんで、たくさんお話を回りたい。 ・たくさんお話を回りたい。 ・2年生いつも回会上手だな。 ・緊張するな。 (2年生) みんなでよくして、たのしい「あそびのフェスティバル」にしよう。 ・回会や挨拶は緊張するな、みんな聞いてくれるかな。 ・お店の準備は大丈夫かな。 ・年長さんも1年生も楽しんでくれるかな。 ・お店の紹介で分かったかな。	<ul style="list-style-type: none"> 約束は、全員がお客さん役もお店の人役も事前に2年生に決めさせる。 お店の紹介は、グループごとに一つのお店につき1分の時間を設定する。
展開 (50)	2 「あそびのフェスティバル」を開催する。 ○前半と後半で、お客さん役とお店の人役に分かれて活動する。 ○お客さん役は、グループでいろいろなお店で楽しんで遊ぶ。 ○お店の人役は、呼び込みやお客さんの対応、遊び方の説明など協力して行う。 ・前半 (25分) ・後半 (25分) <お店の概要> ①100 てんをめぐせ (まとあて) ②うみのパティエー (さかなつり) ③アイエスあせく (カンたんおし) ④とんとんたたき (もぐらたたき) ⑤たからさがしめいろ (おしろとめいろ) ⑥クリスマスキャッチャー (ニューボーキャッチャー) ⑦たのしいはてな (はてなボックス) ⑧いろいろなところ(いこ) (かみひこ)うきとばし	<p>「あそびのフェスティバル」を始めるよ。前半のお店の準備はいいかな。</p> <p>お店の人役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんお客さん来てほしいな。大きな声で呼ぼう。 ・店番は難しいな。 ・何をしたらよいか。聞いてみよう。 ・年長さんが困っているの、声をかけてみよう。 ・みんな楽しんでくれているな。 ・2年生の真似をしてみよう。 ・離れたから直に行こう。 <p>お客さん役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここに行列がいいかな。 ・お話を聞いてみたいかな。 ・あの店はこの店の車く行きたいな。早く行ってみたいかな。 ・お見さん、お姉さんみたいに上手くていいな。 ・友達とどちらからたくさん遊ぶか取れるか決めてみよう。 ・ニューボーキャッチャーは難しいね。 ・速くまで、紙飛行機を飛ばすことができるかな。 <p>そろそろ交代の時間だよ。後半のお店の準備はいいかな。</p> <p>お客さん役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をつないで、年長さんが行きたいところから回ろう。 ・先に離れよう。 ・どこから行こうかな。 ・このお店はおもしろいな。 ・このお店は大きな声で呼んでいるな。 ・ルールのお説明が上手だな。 ・たくさん回れて楽しもう。 ・順番を守って、楽しもう。 ・いっぱいお話を聞いた。 ・年長さんもういっぱい回って倒していいよ。 ・8こともお話を回れよう。 <p>お客さん役</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなお店があつて楽しんだね。どこから行くか迷うな。 ・幼稚園のお友達と1年生はどのお店から行きたいかな。 ・あのお店はお客さんがいっぱいいた。後から行けるかな。 ・このお店は今急いでいるから、先にしようかな。 ・あのお店のルールのお説明は上手だったからよく分かったよ。 ・あつちのお店は飾りがいっぱいきれいだね。 ・このお店は年長さんもみんな回って店番してるね。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼び込みや遊びの説明などの活動がスムーズに行くよう声かけや支援をする。 ルールを守って、お店を楽しめるように支える。 前半と後半の交代の合図で、お客さん役とお店の人役がスムーズに交代できるようにする。 修理コーナーを作り、途中で修理が必要なものが出た場合は、各自で対応できるようにする。 困ったことや自分の思いが言えるように促す。 子どもが気付いたことと、感じていることを見逃さず、認める言葉かけをする。 年長児と1年生、2年生と協力して活動する楽しさを味わわせる。
まとめ (10)	3 学習の振り返りをする。 ○終わりの会をする。 ・感想を交流する。 ・先生のお話 ・終わりのあいさつ	<p>「あそびのフェスティバル」をして思ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい遊べた。 ・どのお店もおもしろかった。 ・上手にお話聞きました。 ・お見さんやお姉さんと一緒に回れて楽しかった。 ・お見さんお姉さんもおもしろかった。 ・年長さんが楽しめるように、先にやってもいいよと教えてくれた。 ・来年はおもしろい遊びを考えたい。 ・たくさん遊びができて、よかったです。 ・お見さんお姉さんもおもしろかった。 ・また今度するときは、○○の工夫をしたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目当てについて、振り返りをさせる。 お客さん役、お店の人役のそれぞれを体験して、感じたことを自由に発表させる。 今日の学習でよかったことを具体的に挙げて、活動をほめる。

12 会場配置図 (場の設定)



＜朝来小学校＞

今年度、公開授業・保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
連携のねらい、活動内容の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保幼小連携の重要性は理解していたが、1、2回の単発的な交流しか実施できずにいた。 → 今年度は年度当初に幼稚園の先生と打ち合わせをし、1年間を見通して年間のカリキュラムに位置付けて、計画を立てることができた。 ・ 昨年は、「遊びのフェスティバル」に年長児をお客さんと招待し、3学期に、1年生が年長児と折り紙パーティーを開いたのみだった。 → 年間を通じて交流を深めようと、1～3学期を通して計画的に進めることができた。小学校での交流だけではなく、さつまいもの苗植えや収穫など幼稚園の行事に参加し交流を進めた。特に、「遊びのフェスティバル」については、年長児、1、2年生で異年齢グループを作り、グループごとに全員でお店を運営した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携が今年だけの特別なことで終わらず、これからも継続的に続けていくことが大切。そのため、年間のカリキュラムの中に、幼小連携をしっかりと位置付け、来年以降も計画的に行っていく。 ・ 小学校のカリキュラムの中で、無理なく進めていくためには、生活科を中心にどの単元で交流できるかを再度、検討する。
子どもの姿の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年生は 小学校の中では年下で上級生にお世話をしてもらうことが多い。そのため、自分たちで何かを計画し、作り上げていく経験は少なかった。 → 特に、2年生は「遊びのフェスティバル」に向けての異年齢グループのリーダーとして、継続的に活動を進める中で、少しずつ次回の活動の見通しを持って、活動を進めていくことができるようになり、その中で達成感や充実感が得られた。これは、これから中学年、高学年として学校全体をまとめていく力につながる第一歩だと考える。また、1年生もグループの中核として、自分たちでできることを探し、年長児と活動したり、2年生をサポートしたりする姿が見られた。また、1年生は、2年生のリーダーとしての姿を見て、憧れや期待を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年長児、1年生、2年生とそれぞれのねらいを持って取り組んだが、1年生と2年生の発達段階に合ったねらいの違いが難しかった ・ 生活科のねらいと照らし合わせて、1、2年生共にしっかりとねらいを意識させて、活動を進めていく必要がある。 ・ 1、2学期は2年生がリーダーとなり活動を進めてきたが、3学期は1年生が中心となり、昔の遊びを通じた交流を進める予定である。
保育者・教員の子どものかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の交流をするまで、小学校の担任としては、新1年生が入学前までにどんなことができるのかということあまり理解せずに、新1年生を迎えていたように思う。だから、入学してすぐの頃は、上級生にお世話されることが多すぎたのではないかと考える。また、入学時からもっと自分のできることもあるのではないかと気付いた。 → 交流を通して、小学校の教師が、年長児が幼稚園でどんなことを学んでいるかを知ることにより、しっかりと受け入れができ、入学後、スムーズに小学校生活へ移行できる手助けにつながるということに気付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流のときには、それぞれの担任が評価をすることにしていたが、どのように評価していくが難しく課題である。漠然とした評価ではなく、もっと焦点を絞り、この児童のこの動きがよかったや、この発言がどんなふうによかったなどと評価することが、次の活動の児童の意欲につながるため、今後取り入れていきたい。
担任同士の間での連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携を進めるまでは、行事やカリキュラムの関係で幼稚園の先生との打ち合わせが難しいのではと思ひ、なかなか打ち合わせができなかった。 → 4月に年間の計画を話し合うことにより、お互いが見通しを持って、行事などに影響されず活動することができた。また、子どもたちにとってよりよい活動の環境を整えるためには、担任同士の綿密な事前の打ち合わせが必要だと感じた。交流後に、担任同士で簡単な意見交流ができたことは、それぞれの立場からの考えが分かり、とても有効なものだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の計画や教材研究などの打ち合わせは、時間に余裕がある長期休み中に行うことがよい。 ・ 時間の確保が難しいが、短時間でも、交流後には担任同士で意見交流できると、次回の活動に活かしていけるので続けたい。
その他(園、学校全体として、家庭とのかわり等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでは、幼稚園との交流は年に1回程度のイベント的のもので、あまり学校全体での取組にはなっていなかった。 → 年長児が小学校を訪れる機会が増え、校内では1、2年生以外の児童も、自然にかかわっている場面も見られた。 → オープンスクールウィークの期間中に、1、2年生では生活科の「遊びのフェスティバル」の準備をする授業として、幼小連携の活動の様子を公開した。保護者の方にも多数ご参観いただき、児童が意欲的に活動する様子を見ていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、1、2年生の担任は実際に交流を進めたので、幼小連携の重要性や幼児が何を学んでいるのかを知ることができた。 ・ 学校全体を考えるとまだまだその理解は不十分だと考えられる。新1年生を迎える小学校側として、全職員で共通理解していくために、幼稚園を訪問したり、幼小連携の活動を参観したりする機会を設けて、理解を深めていきたい。

＜朝来幼稚園＞

今年度、公開授業・保育を実施して

	以前から現在まで、どう変容してきたか？	課題・今後に向けて
連携のねらい、活動内容の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携事業のねらいが身近になってきた。 ・ 連携の持ち方について小学校担任と数回打ち合わせをおこなうことで自然な形で話し合いができるようになった。 ・ 1・2年生と関わって楽しく活動する中で、お客様の存在でなく、積極的に自分の思いを伝えることができるようになってきた。 ・ 顔合わせ→自己紹介→さつまいもの苗植え→収穫祭→遊びのフェスティバル準備→フェスティバル と活動することで交流が円滑にできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校と打ち合わせの時間を設定することは難しいが、交流する回数が多いほど活動はスムーズにできた。 ・ 準備等は、幼・小平行して進め、合同作業の回数はへらしてもいいと思う。 ・ 学校の敷居が高いという感じがあったので、気軽に訪問できるようにしていきたい。
子どもの姿の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童との関わりを通して、学校生活は楽しいというイメージを持ち、期待や夢が広がってきた。 ・ 授業後の感想交流で感想や考えを発表したい園児だが、人前で自分の考えを話す言葉の難しさを知り、とまどう姿が見られた。 ・ 交流後、自分達でお店屋さんごっこを始め、看板・ルール・注意書きを作る人、魚を作る人や遊びのフェスティバルのコーナーなどを再現していた。また、感想交流ごっこもしていた。連携授業が園児により刺激となり、年中組に紹介したり、園全体に広がったりしていた。幼稚園が盛り上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園ではおとなしい子が生き生きと活動し、自分の考えを言えていた。逆にリーダー的な子が目立たなかった。場所が変わると自己発揮できる子とできない子が明確になり、それぞれの課題が見えてきた。 ・ 子どもの気付きに共感し、「帰りの会」でふり返りを強化していきたい。
保育者・教員の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だから授業だからと身構え、堅苦しく考えていたが、小学生との関わりに重点をおくようにしてから、園児が小学生とどのように関わることができるか、生き生きと活動できているか等を自然な形で見るできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児が自主的に動けるようにするために、さらに研修をしていきたい。 ・ 集団で協力して活動できるようなしかけを考え実践していきたい。
担任同士との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校とは数回打ち合わせをおこなった。特に、連携事業の前日には連絡を取り、再確認してから交流したので、スムーズに準備等ができた。 ・ 活動後、小学生をリーダーとしてふり返りがおこなえるように担任同士で打ち合わせをおこなった。お互いの立場や目線から意見を交流することができた。また、園児や小学生についても理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼・小の負担を減らすためにも、年間計画は今年度中に立て、事前打ち合わせをおこなっておく。
その他(園、学校全体として、家庭とのかかわり等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の他にも年間計画の中に一緒に活動する行事を組み入れたので、幼・小の交流は深まった。 ・ 小学生と一緒に活動する中で日々の保育に確信が持てたり課題をとらえたりすることができた。 ・ 公開授業やそれまでの取組の様子を保護者に伝えることによって、入学に安心感を持たせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度も引き続きいくつかの行事を一緒におこない連携していく。 ・ 公開授業は、連携のねらいを理解してもらったためにも、保護者参観ができた方が良かったかもしれない。

